

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|------------------|-----------------------------|----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎ゼミナール | 教養教育科目 基本スキルユニット 入門 | 2 | 1 | この授業では、新入生が、大学（短大）での学習計画をたて、充実した学生生活を送るための基礎的な知識、技能、心構えを身につけることを目指す。まずは目的意識・問題意識を養い、将来の進路を見据えながら、有意義な学生生活を送れるように学習目標と履修プランをしっかりと立てる。また文章表現、レポート作成、文献検索、資料収集、研究発表、討論方法など、大学で学ぶために必要な基本スキルを実践的に修得するとともに、実際にさまざまなテーマを取り上げ、それについて調査研究し、その成果を発表する作業を通して、みずから問題を発見し、解決してゆく意欲的な学習姿勢を身につける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習方法、学習計画、図書館の利用法、資料検索、演習、実験への基礎的知識についての基礎的な知識が習得できている。（知識・理解） ・レポートの書き方、討論やプレゼンテーションについての基礎的な知識が習得できている。（知識・理解） ・テーマの見つけ方、研究・実験の方法、発表の方法について、実践的な学習によって身につけることができる。（技能） ・大学生としてそして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきこと、学生生活に関する心構えやルールについて学び考えることについて意欲的に取り組む姿勢を持つことができる。（関心・意欲・態度） ・有意義で創造的な大学生活を送るための学習計画を意欲的な姿勢でみずから立てられる。（関心・意欲・態度） | <ul style="list-style-type: none"> ・学習方法、学習計画、図書館の利用法、資料検索、演習、実験への基礎的知識についての最低限の知識が習得できている。（知識・理解） ・レポートの書き方、討論やプレゼンテーションについての最低限の知識が習得できている。（知識・理解） ・テーマの見つけ方、研究・実験の方法、発表の方法について、基本的なことについては身につけることができる。（技能） ・大学生としてそして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきこと、学生生活に関する心構えやルールについて学び考える姿勢を持つことができる。（関心・意欲・態度） ・有意義で創造的な大学生活を送るための学習計画を立てられる。（関心・意欲・態度） |
| 表現技法Ⅰ（作文・論文） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 1 | 1・2 | 大学や社会で求められる実用的な文章が書けるようになるために、その基礎となる、文章の基本的な心構えや技術・ルールなどを学習し、それが実践できるようになる。具体的には、文章を書く段階・要素ごとに必要なことがらを課題とする実作の練習を繰り返す。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文章を書くとはどういうことかに関する知識を身に付け、その価値・意義が十分理解できるようになる。（知識・理解） 2. 文章を書くためのさまざまな技能を習得し、それらを活用できるようになる。（技能） 3. 文章を書くための思考・判断ができるようになり、それを端的に表現できるようになる。（思考・判断・表現） 4. 文章を書くことに対する関心・意欲・態度がとくに積極的になる。（関心・意欲・態度） | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文章を書くとはどういうことかに関する知識を身に付け、その価値・意義が一応理解できるようになる。（知識・理解） 2. 文章を書くためのさまざまな技能を習得し、それらを活用できるようになる。（技能） 3. 文章を書くための思考・判断ができるようになり、それを一通り表現できるようになる。（思考・判断・表現） 4. 文章を書くことに対する関心・意欲・態度が示せるようになる。（関心・意欲・態度） |
| 表現技法Ⅱ（読解・分析） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 1 | 1・2 | 表現技法Ⅰをふまえ、実際のレポートが書けるようになる。具体的には、各種資料の読解・分析の方法を学び、それをふまえて、要約文・意見文・感想文・批評文などを書く練習をする。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的な文章とは何かに関する知識を得て、そのために何が必要かを十分に理解できるようになる。（知識・理解） 2. レポートを書くためのさまざまな技能を習得し、それを適切に活用できるようになる。（技能） 3. 資料に基づく思考・判断を行い、それを過不足なく表現できるようになる。（思考・判断・表現） 4. レポートに対する関心・意欲・態度がとくに積極的になる。（関心・意欲・態度） | <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的な文章とは何かに関する知識を得て、そのために何が必要かをある程度は理解できるようになる。（知識・理解） 2. レポートを書くためのさまざまな技能を習得し、それを一通り活用できるようになる。（技能） 3. 資料に基づく思考・判断を行い、それを大体は表現できるようになる。（思考・判断・表現） 4. レポートに対する関心・意欲・態度が以前よりも積極的になる。（関心・意欲・態度） |
| 表現技法Ⅲ（企画立案・発表討論） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 1 | 1・2 | 大学や社会で求められる口頭表現の基本的な技術・ルールなどを学習し、それが実践できるようになる。具体的には、内容の構想・調査、下書き・プレゼン媒体の用意、発表時の発声・姿勢、身振り、言い回しなどを、いくつかの設定により練習する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文章とは異なる口頭表現に関する知識を得て、そのために必要なことが十分に理解できるようになる。（知識・理解） 2. 口頭表現に必要な準備および実演に関する技能を習得し、それらを活用できるようになる。（技能） 3. 表現内容に関する思考・判断をふまえ、それを的確に表現できるようになる。（思考・判断・表現） 4. 大勢の他人を前に話すことに対する関心・意欲・態度がとくに顕著になる。（関心・意欲・態度） | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文章とは異なる口頭表現に関する知識を得て、そのために必要なことが一通り理解できるようになる。（知識・理解） 2. 口頭表現に必要な準備および実演に関する技能を習得し、それらを活用するまで活用できるようになる。（技能） 3. 表現内容に関する思考・判断をふまえ、それを一応表現できるようになる。（思考・判断・表現） 4. 大勢の他人を前に話すことに対する関心・意欲・態度が以前よりは積極的になる。（関心・意欲・態度） |
| 基礎日本語（留学生対象） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2 | 中級後半レベルの教材（日本語や日本文化、日本の社会など、専門分野と関係があると思われる内容のエッセイや論文）を使用し、文法の知識や語彙を増やすとともに、専門書を読む準備段階としての読解力を養う。また、レポートや論文を書くための基本的な文章表現力を身につける。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 中級後半レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中級後半レベルの文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 3. 専門書を読む準備段階として、中級後半レベルの教材（日本語や日本文化、日本の社会など、専門分野と関係があると思われる内容のエッセイや論文）の読解に習熟することができる。 4. 話しことばと書きことばの違いを理解し、論理的な文章に特有な表現を用いたり、段落構成を考えたりしながら、レポートや論文作成に必要な基本的な文章表現に習熟することができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 中級後半レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. 中級後半レベルの文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. 専門書を読む準備段階として、中級後半レベルの教材（日本語や日本文化、日本の社会など、専門分野と関係があると思われる内容のエッセイや論文）の基本的な読解を行うことができる。 4. 話しことばと書きことばの違いを理解し、論理的な文章に特有な表現を用いたり、段落構成を考えたりしながら、レポートや論文作成に必要な基本的な文章表現を行うことができる。 |
| 応用日本語（留学生対象） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2 | 講義の聴き方やノートのとおり方、情報収集の方法など、講義や演習などの学習場面において必要となるスキルを習得する。また、これらの知識を元に、自ら選んだテーマに沿って演習を行い、口頭発表（読み取った文章・資料の内容を説明したり、自分の意見を筋道立てて述べたりする練習）やレポート作成のスキルを身につける。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の聴き方やノートのとおり方、情報収集の方法など、講義や演習などの学習場面において必要となるスキルの運用に習熟することができる。 2. 口頭発表やレポート作成のためのスキルの運用に習熟することができる。 3. 講義や演習などの学習場面にとどまらない、キャンパス内外での円滑なコミュニケーション（挨拶や質問の仕方、メールの書き方など）に必要なスキルの運用に習熟することができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の聴き方やノートのとおり方、情報収集の方法など、講義や演習などの学習場面において必要となるスキルの基本的な運用を行うことができる。 2. 口頭発表やレポート作成のためのスキルの基本的な運用を行うことができる。 3. 講義や演習などの学習場面にとどまらない、キャンパス内外での円滑なコミュニケーション（挨拶や質問の仕方、メールの書き方など）に必要なスキルの基本的な運用を行うことができる。 |
| 英語Ⅰ | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1 | 高校までの受験に対応した学習の偏りを是正しつつ、これまでに身につけた基礎力の一層の充実に努め、コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の運用力を身につける。具体的には、文法の基礎を理解し身につけること、発音や聞き取りの訓練によってスピーキング・リスニングの力を向上させ身につけること、語彙の学習を通じて様々な英語表現を身につけること、を目指す。プレイメントテストを実施し、学生はその成績に応じたレベルのクラスを履修する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常会話レベル以上の英語を聞いて解釈できる。（知識・理解） ・日常会話レベル以上の内容を英語で表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） ・日常会話レベル以上の英語の運用に必要な語彙を身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） | <ul style="list-style-type: none"> ・平易な日常会話レベルの英語を聞いて解釈できる。（知識・理解） ・平易な日常会話レベルの内容を英語で表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） ・平易な日常会話レベルの英語の運用に必要な語彙を使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） |
| 英語Ⅱ | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2 | 高校までの受験に対応した学習の偏りを是正しつつ、これまでに身につけた基礎力の一層の充実に努め、コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の運用力を身につける。具体的には、文法の基礎を理解し身につけること、英文読解や英作文の訓練によってリーディング・ライティングの力を向上させ身につけること、語彙の学習を通じて様々な英語表現を身につけること、を目指す。プレイメントテストを実施し、学生はその成績に応じたレベルのクラスを履修する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった量の英文（パラグラフ）の主旨・大意を正確に解釈できる。（知識・理解） ・自分の意見や身辺な出来事を、パラグラフを構成しながら英文で正確に表現できる。（技能）（思考・判断・表現） ・高度な内容の英語の運用に必要な語彙を身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） | <ul style="list-style-type: none"> ・まとまった量の英文（パラグラフ）の主旨・大意をある程度解釈できる。（知識・理解） ・自分の意見や身辺な出来事を、パラグラフを構成しながら英文である程度表現できる。（技能）（思考・判断・表現） ・平易な内容の英語の運用に必要な語彙を身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|----------------|--------------------------------|----|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ビジネス英語Ⅰ | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 2・3・4 | ビジネスに必要とされる口頭表現の応用的な英語運用能力を身につける。挨拶、自己紹介、来客や電話の対応、アポイントメント、面接、商談、会議などの具体的なビジネスの場面で必要となる英語表現を理解し、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどの技術を身につける。 | ・ビジネスの場面で用いられる英語を正確に解釈できる。（知識・理解） ・ビジネスの場面で、自分の考えを英語で正確に表現できる。（技能）（思考・判断・表現） ・ビジネスの場面で英語の運用に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） | ・ビジネスの場面で用いられる英語をある程度解釈できる。（知識・理解） ・ビジネスの場面で、自分の考えを英語で表現できる。（技能）（思考・判断・表現） ・ビジネスの場面で英語の運用に必要な語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） |
| ビジネス英語Ⅱ | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 2・3・4 | ビジネスに必要とされる文章表現の応用的な英語運用能力を身につける。英文履歴書、外資系会社への就職申し込みの手紙、契約書、Eメール、ビジネスレターなどの書き方や語彙・表現などを理解し身につける。 | ・英語のビジネス文書や新聞・雑誌等のビジネス関連記事を正確に解釈できる。（知識・理解） ・Eメール・ビジネスレター・履歴書等で、相手に伝えたい情報を英語で正確に表現できる。（技能）（思考・判断・表現） ・ビジネスの場面で英語の運用に必要な文法・語彙・表現を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） | ・英語のビジネス文書や新聞・雑誌等のビジネス関連記事がある程度解釈できる。（知識・理解） ・Eメール・ビジネスレター・履歴書等で、相手に伝えたい情報を英語で表現できる。（技能）（思考・判断・表現） ・ビジネスの場面で英語の運用に必要な文法・語彙・表現をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） |
| オーラル・コミュニケーション | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 2・3・4 | 「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」で培った英語力を基に、英語の文法・発音・語彙・表現やコミュニケーションの技術など、総合的な英語運用能力を身につける。 | ・様々な場面におけるコミュニケーションで用いられる英語を聞いて正確に解釈できる。（知識・理解） ・様々な場面におけるコミュニケーションで自分の考えを英語で正確に表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） ・様々な場面におけるコミュニケーションで必要となる語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） | ・様々な場面におけるコミュニケーションで用いられる英語を聞いてある程度解釈できる。（知識・理解） ・様々な場面におけるコミュニケーションで自分の考えを英語で表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） ・様々な場面におけるコミュニケーションで必要となる語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） |
| TOEIC総合演習 | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 2・3・4 | 「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」で培った英語力を基に、TOEICのスコアアップを目指した問題演習を行い、総合的な英語運用能力を身につける。 | ・リスニングの問題演習を通して、英語の音声を正確に聞き取ることができるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・リーディングの問題演習を通して、英文を正確に解釈できるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・目標とするスコアの取得に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） | ・リスニングの問題演習を通して、英語の音声をある程度聞き取ることができるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・リーディングの問題演習を通して、英文をある程度解釈できるようになる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・目標とするスコアの取得に必要な語彙をある程度身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） |
| 基礎フランス語（入門） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1 | フランス語を学ぶ楽しさを味わいつつ、文化としてのフランス語学習の意味を視野に入れて、初歩的なフランス語を習得する。すなわち、発音の規則、文法の初歩を学び、簡単な日常会話に習熟するとともに、フランス語の文化的背景（生活、社会、文学、芸術、歴史、地理等）にも触れて理解する。 | 1. フランス語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. フランス語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. フランス語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. フランス語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. フランス語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | 1. フランス語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. フランス語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. フランス語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. フランス語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. フランス語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。 |
| 基礎フランス語（表現） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1 | 「基礎フランス語（入門）」をすでに履修し、初歩的なフランス語になじみ、フランス語学習の意味を自覚した学生が、文化としてのフランス語を本格的に学び、身につけてゆくための基礎固めをする。すなわち、フランス語の初級文法を体系的に理解し、その運用能力を身につけるとともに、フランス語圏の文化を知り、それについてみずから考える。 | 1. フランス語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. フランス語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. フランス語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | 1. フランス語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. フランス語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. フランス語圏の文化に関する基本的な事象について概略を説明することができる。 |
| 応用フランス語（総合） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 2・3・4 | 「基礎フランス語」を学んだ学生が、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた実践的な語学力を身につける。フランス語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化とフランス語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土台を作る。 | 1. フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 | 1. フランス語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 2. フランス語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 3. フランス語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、概略を説明することができる。 |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------------|--------------------------------|----|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎中国語（入門） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1 | 初学者を対象に、中国語を学ぶ楽しさを知り、文化としてこれを学ぶ意味を自覚することを主眼に置きながら、初歩的な中国語を習得する。具体的には、発音のしくみとその表記法であるピンインから始まり、文法の初歩、簡単な日常会話などを学んでいく。また、中国語を学ぶ楽しさと意味をより深く認識すべく、言葉の文化的背景（生活、社会、文学、芸術、歴史、地理等）などにも触れて理解する。 | 1. 中国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. 中国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. 中国語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. 中国語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | 1. 中国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. 中国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. 中国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. 中国語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. 中国語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。 |
| 基礎中国語（表現） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1 | 「基礎中国語（入門）」をすでに履修し、初歩的な中国語になじみ、これを学ぶ意味を自覚した学生が、文化としての中国語を本格的に学び、身につけてゆくための基礎固めをする。すなわち、中国語の初級文法を体系的に学び、その運用能力を培うとともに、口語表現能力を向上させる。 | 1. 中国語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中国語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. 中国語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | 1. 中国語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. 中国語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. 中国語圏の文化に関する基本的な事象について概略を説明することができる。 |
| 応用中国語（総合） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 2・3・4 | 「基礎中国語」を学んだ学生が、実践的な語学力を身につける。具体的には、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた内容（講読、会話、文法、作文、検定試験対策等）のトレーニングを行う。中国語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化と中国語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土台を作る。 | 1. 中国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 | 1. 中国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 2. 中国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 3. 中国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、概略を説明することができる。 |
| 基礎ドイツ語（入門） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1 | ドイツ語を学ぶ楽しさを味わいつつ、文化としてのドイツ語学習の意味を視野に入れて、初歩的なドイツ語を習得する。すなわち、発音の規則、文法の初歩を学び、簡単な日常会話に習熟するとともに、ドイツ語の文化的背景（生活、社会、文学、芸術、歴史、地理等）にも触れて理解する。 | 1. ドイツ語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. ドイツ語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. ドイツ語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. ドイツ語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | 1. ドイツ語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. ドイツ語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. ドイツ語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. ドイツ語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. ドイツ語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。 |
| 基礎ドイツ語（表現） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1 | 「基礎ドイツ語（入門）」をすでに履修し、初歩的なドイツ語になじみ、ドイツ語学習の意味を自覚した学生が、文化としてのドイツ語を本格的に学び、身につけてゆくための基礎固めをする。具体的には、ドイツ語の初級文法を体系的に理解し、その運用能力を身につけるとともに、ドイツ語圏の文化を知り、それについてみずから考える。 | 1. ドイツ語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | 1. ドイツ語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. ドイツ語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する基本的な事象について概略を説明することができる。 |
| 応用ドイツ語（総合） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 2・3・4 | 「基礎ドイツ語」を学んだ学生が、実践的な語学力を身につける。具体的には、初級レベルの復習に留意しつつ、みずからの関心や必要に応じた内容（講読、会話、文法、作文、検定試験対策等）のトレーニングを行う。ドイツ語圏の社会生活のなかで行われる意見交換の機会に、他者の意見を理解し、自分の意見を表現する力を培う。それと同時に自国の文化とドイツ語圏の文化の相違を比較し、異文化を理解する土台を作る。 | 1. ドイツ語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 | 1. ドイツ語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 2. ドイツ語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、概略を説明することができる。 |
| 基礎スペイン語（入門） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2・3・4 | スペイン語の発音と文法のアウトラインを学ぶことを主眼に、日常よく用いられる基本単語、基本表現、重要動詞の活用などに親しむことを通じて、文化としてのスペイン語とはどのような言葉であるか、そのおおまかな全体像を把握しつつ、つぎのステップに繋げてゆく。 | 1. スペイン語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. スペイン語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. スペイン語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | 1. スペイン語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. スペイン語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. スペイン語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。 |
| 基礎イタリア語（入門） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2・3・4 | イタリア語の発音と文法のアウトラインを学ぶことを主眼に、日常よく用いられる基本単語、基本表現、重要動詞の活用などに親しむことを通じて、文化としてのイタリア語とはどのような言葉であるか、そのおおまかな全体像を把握しつつ、つぎのステップに繋げてゆく。 | 1. イタリア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. イタリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. イタリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. イタリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. イタリア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | 1. イタリア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. イタリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. イタリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. イタリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. イタリア語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。 |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|---------------|--------------------------------|----|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基礎ロシア語（入門） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2・3・4 | ロシア語の文字の書き方にもなじみながら、発音と文法のアウトラインを学ぶことを主眼に、日常よく用いられる基本単語、基本表現、重要動詞の活用などに親しむことを通じて、文化としてのロシア語とはどういう言葉であるか、そのおおまかな全体像を把握しつつ、つぎのステップに繋げてゆく。 | 1. ロシア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. ロシア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. ロシア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. ロシア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. ロシア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | 1. ロシア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. ロシア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. ロシア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. ロシア語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. ロシア語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。 |
| 基礎韓国語（入門） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2・3・4 | 韓国語の文字の書き方にもなじみながら、発音と文法のアウトラインを学ぶことを主眼に、日常よく用いられる基本単語、基本表現に親しむことを通じて、文化としての韓国語とはどういう言葉であるか、そのおおまかな全体像を把握しつつ、つぎのステップに繋げてゆく。 | 1. 韓国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 韓国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. 韓国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. 韓国語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. 韓国語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | 1. 韓国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. 韓国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. 韓国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. 韓国語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. 韓国語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。 |
| 応用韓国語（総合） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 2・3・4 | 「基礎韓国語（入門）」を踏まえ、「聞く、話す、書く、読む」の幅広い運用能力を身につける。 | 1. 韓国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. 韓国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. 韓国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。 | 1. 韓国語の中級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 2. 韓国語の中級レベルの文法や構文を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 3. 韓国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、概略を説明することができる。 |
| 基礎アラビア語Ⅰ | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 1 | 1・2・3・4 | アラビア語を学ぶ楽しさを味わいつつ、文化としてのアラビア語学修の意味を視野に入れて、初歩的なアラビア語を習得する。すなわち、アラビア語の文字の読み書き、発音の規則、文法の初歩を学び、簡単な日常会話に習熟するとともに、アラビア語の文化的背景（生活、社会、文学、芸術、歴史、地理等）にも触れて親しむ。 | 1. アラビア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. アラビア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. アラビア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. アラビア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. アラビア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。 | 1. アラビア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. アラビア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. アラビア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. アラビア語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. アラビア語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。 |
| 基礎アラビア語Ⅱ | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 1 | 1・2・3・4 | 「基礎アラビア語Ⅰ」をすでに履修し、初歩的なアラビア語になじみ、アラビア語を学ぶ意味を自覚した学生が、文化としてのアラビア語を本格的に学び、身につけてゆくための基礎固めをする。すなわち、アラビア語の基礎的な文法を体系的に理解し、その運用能力を身につけるとともに、単語を修得し、日常生活に役立つ口語表現能力を向上させる。 | 1. アラビア語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. アラビア語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. アラビア語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。 | 1. アラビア語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. アラビア語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. アラビア語圏の文化に関する基本的な事象について概略を説明することができる。 |
| 情報基礎 | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1 | 高度情報化社会に必要な情報処理の基礎を「理論的に」学ぶ。併せて、現代社会における情報の役割と活用、社会を形成する情報システムと個人の情報行動（発信、検索、蓄積、運用）との関連なども理解する。 | 以下に挙げる概念等を深く理解し、他者に説明できる。（知識・理解） 1. アナログ情報とデジタル情報 2. 情報量 3. コンピュータシステム 4. コンピュータネットワーク 5. セキュリティ 6. 情報システムとそれを支える制度 7. 現代社会における情報システムの問題点認識とそれへの対応 8. メディアリテラシとSNSリテラシ 9. 個人情報の管理 | 以下に挙げる概念等の基本を理解している。（知識・理解） 1. アナログ情報とデジタル情報 2. 情報量 3. コンピュータシステム 4. コンピュータネットワーク 5. セキュリティ 6. 情報システムとそれを支える制度 7. 現代社会における情報システムの問題点認識とそれへの対応 8. メディアリテラシとSNSリテラシ 9. 個人情報の管理 |
| 情報処理 | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1 | 高度情報化社会に必要な情報処理技術の基礎を「実践的に」学ぶ。 | 以下の種類のソフトウェアの概念や各種機能、使用法を深く理解し、それを他者に説明できる。さらに様々な問題の解決のためにそれを適用できる。（技能） 1. ワードプロセッサ 2. 表計算ソフトウェア（データベース関連機能および統計関連機能を除く） 3. プレゼンテーションソフトウェア | 以下の種類のソフトウェアの概念や各種機能、使用法の基本を理解している。さらに、授業時に提示された問題の解決のためにそれを適用できる。（技能） 1. ワードプロセッサ 2. 表計算ソフトウェア（データベース関連機能および統計関連機能を除く） 3. プレゼンテーションソフトウェア |
| 情報活用A（データベース） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2 | 「情報基礎」「情報処理」で扱う知識とスキルをベースに、データベース機能の理解を主眼として、情報の収集・加工・分析・検索・蓄積と廃棄・発信など、情報を活用するための管理手法について「実践的に」学習する。 | 以下の種類のソフトウェア・システムの概念や各種機能、使用法を深く理解し、それを他者に説明できる。さらに様々な問題の解決のためにそれを適用できる。（技能） 1. 表計算ソフトウェア（「情報処理」で扱わないデータベース関連機能に限る） 2. リレーショナルデータベース管理システム | 以下の種類のソフトウェア・システムの概念や各種機能、使用法の基本を理解している。さらに、授業時提示された問題の解決のためにそれを適用できる。（技能） 1. 表計算ソフトウェア（「情報処理」で扱わないデータベース関連機能に限る） 2. リレーショナルデータベース管理システム |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|----------------|--------------------------------|----|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 情報活用法B（ネットワーク） | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2 | 「情報基礎」「情報処理」で扱う知識とスキルをベースとして、まず簡便に情報発信できるブログ（WebLog）の作成を行い、Web管理の実際を学ぶ。さらに、双方向型のホームページの作成に取り組み、情報収集の方法（返信メールによる収集、書き込み欄による収集、アンケート方式による収集など）と得られた情報の加工のプロセスについても学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Web上のデータベースサイトからの効果的な情報収集ができる。（技能）（思考・判断・表現） ・各種ソフトウェアを使用し、収集した情報の効果的な加工と変換ができる。（技能） ・HTMLとJavaScriptを用いた基本的Webページ作成技法を身につけると共に、自らの考えを反映させた発展的なWebページ作成ができる。（技能）（思考・判断・表現） ・Webページ作成・管理ソフトウェアを用いた基本的Webページ作成技法を身につけると共に、自らの考えを反映させた発展的なWebページ作成ができる。（技能）（思考・判断・表現） ・Weblogを用いて、自らの考えを反映させた発展的なWebサイト作成ができる。また、他者の作成したWeblogサイトの評価ができる。（技能）（思考・判断・表現） ・コンテンツマネジメントシステムを用いて、自らの考えを反映させた発展的なWebサイト作成ができる。また、他者の作成したコンテンツマネジメントシステムサイトの評価ができる。（技能）（思考・判断・表現） | <ul style="list-style-type: none"> ・Web上のデータベースサイトからの基本的な情報収集ができる。（技能）（思考・判断・表現） ・各種ソフトウェアを使用し、収集した情報の基本的な加工と変換ができる。（技能） ・HTMLとJavaScriptを用いた基本的Webページ作成技法を身につけている。（技能）（思考・判断・表現） ・Weblogの基本的使用方法を理解している。（技能）（思考・判断・表現） ・コンテンツマネジメントシステムの基本的使用方法を理解している。（技能）（思考・判断・表現） |
| 統計基礎 | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2 | 統計学の基礎と人文・社会科学、自然科学への適用方法、基礎的な知識、特に統計結果の見方について理論的に学習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・統計学およびその各種方法（検定・分析・集計）を深く理解し、他者に説明できる。（知識・理解） ・表計算ソフトウェアの統計関連機能を深く理解し、人文科学・社会科学・自然科学の様々な問題に適用できる。（技能） | <ul style="list-style-type: none"> ・統計学およびその各種方法（検定・分析・集計）の基本を理解している。（知識・理解） ・表計算ソフトウェアの統計関連機能の基本を理解している。（技能） |
| 統計情報処理 | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 2 | 1・2 | 高度情報化の現在において、自然科学の分野のみならず人文科学その他の多くの分野でも不可欠なものである統計の数理処理について学ぶ。情報収集にあたり、仮説の構築とそれを検証するための実施計画の詳細（求める情報の質、対象、収集手段など）、得られた情報の特性に対応した統計処理の手法、結果の発信方法などを具体的に学習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・統計対象となるデータの効果的な収集方法を理解している。（技能） ・「統計基礎」では扱わない応用的な統計手法を深く理解し、他者に説明できる。（技能） ・解析用ソフトウェアの使用方法を深く理解し、他者に説明できる。（技能） ・分析結果を発表するための効果的な資料を作成することができ、聴衆が理解しやすい発表を行うことができる。（技能） | <ul style="list-style-type: none"> ・統計対象となるデータの基本的な収集方法を理解している。（技能） ・「統計基礎」では扱わない応用的な統計手法の基本を理解している。（技能） ・解析用ソフトウェアの使用の基本を理解している。（技能） ・分析結果を発表するための最低限の資料を作成することができ、聴衆がおおよそ理解できる発表を行うことができる。（技能） |
| 健康スポーツ実習 A | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 1 | 1・2・3・4 | 運動活動を通して運動に親しむ態度を身につけ、自分自身の体力や健康問題に関して気づき、それらの改善について思考、実践する。日常生活を営むために必要な体力と健康の維持・増進に関する運動の必要性や、運動が果たす役割を学び、基礎的な運動技術や知識を習得する。実技例としてストレッチやウォーキング等のエクササイズ、バレーボールやバドミントン等の球技、ユニホッケーやアルティメット等のニュースポーツを実践する。活動を通して学生同士の交流から、コミュニケーション能力を向上させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しむ姿勢を持ち、自ら積極的に活動する態度を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度） ・自分自身の体力や健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための改善策を考え、実践することができるようになる。（思考・判断・表現） ・学生同士のコミュニケーションを図ることができ、積極的に人間関係を構築することができるようになる。（思考・判断・表現） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解し、身につけることができるようになる。（知識・理解）（技能） | <ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しむ姿勢を持ち、自ら積極的に活動する態度を身につける努力ができるようになる。（関心・意欲・態度） ・自分自身の体力や健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための改善策を基礎的な選択肢から選び実践に向けて行動することができるようになる。（思考・判断・表現） ・学生同士のコミュニケーションを図ることができ、積極的に人間関係を構築するための努力ができるようになる。（思考・判断・表現） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割をおおた理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解することができるようになる。（知識・理解）（技能） |
| 健康スポーツ実習 B | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 1 | 1・2・3・4 | 自分に合った運動活動において、その運動やスポーツの文化的・社会的背景をより深く理解し、運動技術や体力においてより向上を目指した運動活動を行う。日常生活を営むために必要な体力と健康の維持・増進に関する運動の必要性や、運動が果たす役割を学び、基礎的な運動技術や知識の習得を図る。実技例としてストレッチやウォーキング等のエクササイズ、バレーボールやバドミントン等の球技、ユニホッケーやアルティメット等のニュースポーツを実践し、生涯を通して運動に親しむ態度を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った運動活動において、その運動やスポーツの文化的・社会的背景が理解できるようになる。（関心・意欲・態度） ・運動技術や自身の体力について、より向上を目指した活動ができるようになる。（思考・判断・技能） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解し、身につけることができるようになる。（知識・理解）（技能） | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った運動活動において、その運動やスポーツの文化的・社会的背景がおおた理解できるようになる。（関心・意欲・態度） ・運動技術や自身の体力について、向上を目指した努力ができるようになる。（思考・判断・技能） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割をおおた理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解することができるようになる。（知識・理解）（技能） |
| 健康スポーツ演習 | 教養教育科目 基本スキルユニット ことばとスキル | 1 | 1 | 生理学や公衆衛生学、保健学等の見地から、健康な生活に必要な理論を理解し、日常生活を営むために必要な体力と健康の維持・増進に関する運動の必要性や、それらに対して運動が果たす役割を学ぶ。さらに体力や健康に関する社会的問題に関心を持ち、問題意識を持って考察する。また、エクササイズ各種、球技、ニュースポーツなど運動活動を通して基礎的な技術や知識の習得を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生理学や公衆衛生学、保健学等の知識を深め、健康を取り巻く環境を多面的に理解し、生涯における健康づくりの具体的方法や、体力や健康に関する社会的問題について理解できるようになる。（知識・理解）（思考・判断） ・自分自身の体力や健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための改善策を考え、実践することができるようになる。（思考・判断・表現） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術・知識を理解し、身につけることができるようになる。（知識・理解）（技能） | <ul style="list-style-type: none"> ・生理学や公衆衛生学、保健学等の知識を深め、健康を取り巻く環境を理解し、生涯における健康づくりの具体的方法や、体力や健康に関する社会的問題についておおた理解できるようになる。（知識・理解）（思考・判断） ・自分自身の体力や健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための方法を考えることができるようになる。（思考・判断・表現） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割をおおた理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術・知識を理解することができるようになる。（知識・理解）（技能） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|---------|-----------------------------|----|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教養講座 | 教養教育科目 教養ユニット 学問への招待 | 2 | 1・2・ 3・4 | 大学生活と専門分野の学習において必要な「自分らしいリーダーシップとは何か？」を探究する。リーダーシップの発揮をめざして、自己理解を深めると同時に、他者からのフィードバックを受け止め、自分の強みと弱みを理解し、自分らしいリーダーシップを考察する。実際の問題を扱い、解決に向けて行動するグループワークを通じて、受講生は、問題解決に必要な論理思考やコミュニケーションスキルを身に付ける。リーダーシップ開発の基本サイクルを踏まえ、授業内外でリーダーシップの発揮を実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活や専門分野の学習において「自分らしいリーダーシップの発揮」の必要性を知り、他者に説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） ・自己理解を深め、他者からのフィードバックを受け止め、自分の強みと弱みをふまえて自分らしいリーダーシップを考察することができる。（思考・判断・表現） ・実際の問題の解決に必要な論理思考やコミュニケーションスキルを学び、グループワークを通じて率先して問題解決に取り組むことができる（関心・意欲・態度）（技能） ・リーダーシップ開発の基本サイクルを踏まえて、授業内外でリーダーシップの発揮を実践することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） | <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活や専門分野の学習において「自分らしいリーダーシップの発揮」の必要性を知る。（知識・理解） ・自己理解を深め、他者からのフィードバックを受け取り、自分の強みをふまえて自分らしいリーダーシップを考察することができる。（思考・判断・表現） ・実際の問題の解決に必要な論理思考やコミュニケーションスキルを知り、グループワークを通じた問題解決に意欲をもつことができる（関心・意欲・態度）（技能） ・リーダーシップ開発の基本サイクルを踏まえて、授業内外でのリーダーシップの発揮へ意欲を醸成することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） |
| 比較文化の視点 | 教養教育科目 教養ユニット 生活の中の教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 「比較」は、物事を複数の見方ととらえる姿勢であり、対象を偏りなく、公正にとらえるのに有効である。それは、たとえば目が二つあって、はじめて物が立体的に見え、耳が二つあって、初めて音の動きや広がりがかかるのと似ている。比較の視点をしっかりと学ぶことで、とかく偏見や先入観、イメージにとらわれがちな現代社会にあって、周りに流されない、主体的・建設的な生きかたを身につけることができるだろう。授業は三種類開講され、文学芸術などの人文文化から、衣食住・風俗習慣などの生活文化に至る幅広い分野のなかから、いくつかを重点的に学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ比較の着眼・方法を通し、物事を先入観や偏見にとらわれず、客観的・相対的に見る姿勢を身につけ、実践することができる（知識・理解）（思考・判断・表現）。 ・その前提としての、好奇心・探求心・資料活用能力を十分に発揮することができる（関心・意欲・態度）。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業によって比較の着眼・方法の重要性・有用性を実感し、物事を先入観や偏見にとらわれず、客観的・相対的に見る姿勢を目指すことができる（知識・理解）（思考・判断・表現）。 ・その前提としての、好奇心・探求心・資料活用能力の向上を心がけることができる（関心・意欲・態度）。 |
| メディアと文化 | 教養教育科目 教養ユニット 生活の中の教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 「メディア」とは事物と事物の間をつなぐ媒介（ミディウム）の複数形である。現代ではいわゆるマスコミ・マスメディアをはじめとする社会的コミュニケーション全体の代名詞ともなっている。さらに、こうしたメディアにはさまざまな種類のものがある。このようなメディアの歴史的発達について検討し、また、人々の暮らしや社会にまつわる多種多様な文化とどのように関わり合ってきたのかを具体的に考察する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・メディアにはさまざまな種類のものがあり、それぞれ独自の歴史的発達を遂げてきたことについて十分な知識があり、その本質を理解している。（知識・理解） ・それぞれのメディアと、それにまつわる多種多様な文化との関係について分析・考察し、適切な見解を述べることができる。（思考・判断・表現） ・ある有効な検討方法のもとに分析・考察を行い、高いレベルのレポートを作成することができる。（技能） | <ul style="list-style-type: none"> ・メディアのさまざまな種類や、それぞれの独自な発達について最低限の知識があり、その本質をある程度は理解できる。（知識・理解） ・メディアと、それにまつわる多種多様な文化との関係についてある程度は分析・考察ができ、見解を述べることはできる。（思考・判断・表現） ・ある検討方法のもとに分析・考察を行うことができ、最低限のレベルのレポートは作成することができる。（技能） |
| 文学の世界 | 教養教育科目 教養ユニット 生活の中の教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 古今東西の文学作品を鑑賞することによって、文学とは何か、また文学表現の特質とは何か、を学んでゆく。具体的には、文学が表現する人生の多様さと豊かさに触れることにより、日々の生活の中に美や感動、驚きを見出すとともに、文学に表現された深い人間理解を通じて、自分自身はもちろん、他者の心をも見つけ直す。 | 授業で取り上げられた作品やテーマを正しく理解したうえで、それを自分自身の問題として受け止め、創造的・発展的に解釈することによって、自分の人生観や世界観を広げ、深めることができるようになる。 | さまざまな文学表現の特質に親しみ、興味を持つことができるようになる。授業で取り上げられた作品やテーマを正しく理解し、理解したその内容を自分自身の言葉で明確に表現できるようになる。 |
| 芸術の世界 | 教養教育科目 教養ユニット 生活の中の教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 美術・音楽・演劇などの芸術作品を扱い、それを「芸術」として成り立たせている社会的な枠組み、創造の過程や、同時代の人びとによる受容のされ方に触れることによって、複数の視点から物事を捉える感性を養うとともに、芸術や文化の多様性を体験することを通じて、みずからの価値観を相対化して捉えるすべを学ぶ。また、芸術が今後の社会において果たすべき役割を考察することによって、私たちが生きてゆく世界のあるべき姿を探るべく、ゆく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・美術・音楽・演劇などを芸術として成り立たせている社会的な枠組みや、創造の過程、受容のされ方といった芸術をめぐる問題のあり方について正確に説明できるようになる ・価値観の多様性への視点を身につけた上で、みずから問いを立て、芸術についての考え方をういて深く考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・美術・音楽・演劇などを芸術として成り立たせている社会的な枠組みや、創造の過程、受容のされ方についてある程度正確に説明できるようになる。 ・価値観の多様性への視点の持ち方を学んだ上で、みずから問いを立て、芸術についての考え方をういて自分なりに考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる。 |
| デザインの現在 | 教養教育科目 教養ユニット 生活の中の教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 「デザイン」とは、色や柄を決めたり、形を創造するだけでなく、ものづくりから社会システムに至るまで、豊かな暮らしの実現のために「どのように生きるか」を考える行為である。この視点に立って、近・現代の国内外のデザインの歴史、基本的な人名やさまざまなデザイン運動、用語などを学び、デザインが介在する人間とモノ・コトとの多様な関わり合いを理解する。各領域（グラフィック、建築・インテリア、環境・景観、プロダクト、ファッション、広告、エンターテイメント等）の事例を学びながら、デザイン行為の基本となる発想や考え方、技術革新、生産と流通・消費と廃棄の過程などについて体系的に理解し、デザインの多様性と可能性、今後の展開を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・近・現代デザインの流れを理解した上で、デザインの様式、デザイン運動、著名なデザイナーや作品について、具体的に説明できる。（知識・理解） ・日常生活の中で、様々なデザインに興味を持ち、デザインを見る目を養い、デザインとは何かを自分の言葉で述べるができる。（関心・意欲・態度） ・数多くのデザインを知ることによって、制作者の意図を的確に捉え、使い手の立場で客観的に評価できる。（関心・意欲・態度） ・デザイン思考を身につけ、課題を自ら発見し、創造的な表現方法やアウトプットに応用できる。（思考・判断・表現） | <ul style="list-style-type: none"> ・近・現代デザインの流れを理解した上で、基本的な名称の説明ができる。（知識・理解） ・日常生活の中で、様々なデザインに興味を持ち、デザインとは何かを述べることができる。（関心・意欲・態度） ・デザインを知ることによって、制作者の意図を捉え、使い手の立場で評価できる。（関心・意欲・態度） ・デザイン思考を身につけ、表現方法の一つに取り入れることができる。（思考・判断・表現） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|------------|-------------------------------|----|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 衣食住の文化 | 教養教育科目 教養ユニット 生活の中の教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 衣食住はそれぞれ人間が生きていくために必要不可欠なものであるとともに、古代以来、人間はこれらをひとつの文化として高めてきた。こうした文化としての衣食住の歴史をたどるとともに、現代社会における衣食住のあり方を考察する。 「衣」では、衣の歴史をたどるとともに、多面的な側面を合わせ持つ衣服の役割を理解することから「衣」のあり方を考察する。「食」では、人の生活における「食」とは何かを考えることからライフスタイルの変化と食についてグローバルな視点から考察する。「住」では、住の背景にある文化を理解することから「住」のあるべき姿を考察する。なお、この授業は衣食住に関するオムニバス授業ではありません。 | 「衣」では、 ・装いの文化や服装規範について具体的に述べることができる。（知識・理解） ・文化的な衣生活の創造に積極的に関心を示すことができる。（関心・意欲・態度） ・自分や家族の着装について服装規範を考慮して総合的に判断することができる。（思考・判断・表現） 「食」では、 ・世界各国や日本の多様な食文化を地域的、歴史的背景を通して具体的に述べるすることができる。（知識・理解） ・異文化に対する知的好奇心を積極的に養うことができる。（関心・意欲・態度） ・食文化の知識を自分の食生活で的確に活かすことができる。（思考・判断・表現） 「住」では、 ・歴史的側面から住空間の変遷を具体的に述べるすることができる。（知識・理解） ・文化とその空間の関係性について具体的に説明することができる。（知識・理解） | 「衣」では、 ・装いの文化や服装規範について述べるができる。（知識・理解） ・文化的な衣生活の創造に関心を示すことができる。（関心・意欲・態度） ・自分の着装について服装規範を考慮して判断することができる。（思考・判断・表現） 「食」では、 ・世界各国や日本の多様な食文化を地域的、歴史的背景を通して述べるすることができる。（知識・理解） ・異文化に対する知的好奇心を養うことができる。（関心・意欲・態度） ・食文化の知識を自分の食生活で活かすことができる。（思考・判断・表現） 「住」では、 ・歴史的側面から住空間の変遷を述べることができる。（知識・理解） ・文化とその空間の関係性について説明することができる。（思考・判断・表現） |
| 生活環境とアメニティ | 教養教育科目 教養ユニット 生活の中の教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 現代社会、特に都市社会においては、人間が生活するにあたって、自然を取り入れることが重要であるとともに、時間的・空間的あるいは人間関係において調和のとれた環境を作り出すことが重要であることを知るとともに、人にやさしい、しかるべき生活環境を創り出すために、アメニティの概念を学び、快適な居住環境と関連して、自然、歴史的文化財、街並み、風景、地域文化、コミュニティの連帯、地域的公共サービスのあり方などを取り上げ、生活者として、どのような関わり方が求められてくるかについての知識を習得する。 | ・授業によって得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げようとする努力ができるようになる。（関心・意欲・態度） ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心を身につけること努力ができるようになる。（関心・意欲・態度） | ・授業によって得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。（関心・意欲・態度） ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度） |
| 健康の科学 | 教養教育科目 教養ユニット 生活の中の教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 現代社会において健康な生活を送るにはどのような注意や配慮が必要か。病気や怪我をした場合に必要とされる看護のあり方はもちろんのことであるが、日々の食を通して健康を維持することは生活習慣病を予防することに繋がる。食生活の欧米型化という食事情もあって、肥満や生活習慣病、あるいはその未病状態が増加傾向にあり、改めて健康を科学する必要に迫られている。そこで、健康とはどのようなことなのか、健康の維持増進には何が必要なのかなどを具体的に考察する。 | ・授業によって得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げることができるようになる（知識・理解）。 ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心を身につけることができるようになる（関心・意欲・態度）。 | ・健康とはどのようなことか、基本的な事項について説明できる（知識・理解）。 ・健康の維持増進のためには何が必要なのかといったことについて、基本的な事項が説明できる（知識・理解）。 ・創造的に人生を送るために求められる事項について、自分の考えが説明できる（関心・意欲・態度）。 |
| 介護・ケアと生活 | 教養教育科目 教養ユニット 生活の中の教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 介護やケアを必要とする高齢者や障害者の増大は、少子高齢社会の課題ではあるが、当事者以外は社会や制度の成り行きを傍観しがちである。だが、当事者やその家族となったときには、これまでの生活の維持が困難となったり、家族関係が悪化することは多い。そこで、知識としてこれらが誰にでも起こり得ることを知り、当事者としての自己選択や自己決定の重要性や家族の役割とともに、介護やケアをどのようにとらえ調達すべきか、福祉サービスや情報の活用の仕方について理解する。 | ・高齢者福祉・障害者福祉に関わる法制度について具体的な内容を理解できるようになる。 ・介護・ケアと生活を取り巻く高齢者・障害者に対する実際の支援について独自の考えを加えながら、説明できるようになる。 | ・高齢者福祉・障害者福祉に関わる法制度についてその概要を理解できるようになる。 ・介護・ケアと生活を取り巻く高齢者・障害者に対する実際の支援について講義の範囲内で説明できるようになる。 |
| 政治・社会の諸課題 | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 現代社会における諸課題を、生活者の視点から身近な問題として取り上げ、具体的な事例に基づいて分かり易く解決し、理解を深めるとともに、一般市民の立場からどのように考え、対応してゆくべきかを学ぶ。政治・社会の諸課題においては、日本や他の国々における社会的な時事問題を取り上げ、それらに対する政策がどのように決定され、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、今後どのような課題に取り組まなければならないかを、具体的に考察する。 | 日本や他の国々で起きているさまざまな政治的、社会的な問題に関する書物やメディア等の情報に日頃から関心を持ち、これらの諸問題について理解するとともに、今後どのように問題の解決が図られるかについて自分なりに考察できる。（知識・理解） | 日本や他の国々で起きているさまざまな政治的、社会的な問題に関する書物やメディア等の情報に日頃から関心を持ち、これらの諸問題について理解できる。（知識・理解） |
| 経済・産業の諸課題 | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 現代社会における諸課題を、生活者の視点から身近な問題として取り上げ、具体的な事例に基づいて考察することで、理解を深めるとともに、一般市民の立場からどのように考え、対応してゆくべきかを学ぶ。経済・産業の諸課題においては、日本経済・世界経済の動向を、時事問題を事例にして具体的に考察するとともに、経済の変化により産業構造や政策がどのように変化してきたか、企業と市場経済・金融経済との関連性について、具体的に考察する。 | 日本経済・世界経済の動向を理解する。経済の変化に伴い、産業構造や政策がどのように変化してきたかという歴史的変遷を理解する。授業によって得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。創造的に人生を送るための問題意識や好奇心を身につけることができるようになる。 | 日本経済・世界経済の動向を理解する。経済の変化に伴い、産業構造や政策がどのように変化してきたかという歴史的変遷を理解する。 |
| 国際関係の諸課題 | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 現代社会における諸課題を、生活者の視点から身近な問題として取り上げ、具体的な事例に基づいて分かり易く解決し、理解を深めるとともに、一般市民の立場からどのように考え、対応してゆくべきかを学ぶ。国際関係の諸課題においては、現代における国際関係のさまざまな問題を検討し、これらの問題が歴史的にどのような位置付けにあり、どのような政策がとられ、残された課題にどのように取り組まなければならないかを、具体的に考察する。 | 現在の国際社会で起きているさまざまな問題に関する書物やメディア等の情報に日頃から関心を持ち、これらの諸問題について理解するとともに、今後どのように問題の解決が図られるべきかについて自分なりに考察できる。（知識・理解） | 現在の国際社会で起きているさまざまな問題に関する書物やメディア等の情報に日頃から関心を持ち、これらの諸問題について理解できる。（知識・理解） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-----------|-------------------------------|----|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 環境・科学の諸課題 | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 現代社会における諸課題を、生活者の視点から身近な問題として取り上げ、具体的な事例に基づいて分かり易く解説し、理解を深めるとともに、一般市民の立場からどのように考え、対応してゆべきかを考える。「環境・科学の諸課題」においては、現代社会における様々な営みが環境に対して大きな負荷を与え続けてきたことを理解するとともに、環境負荷の健康や生態系への影響を科学的に評価するための方法、環境の現状、環境負荷の低減技術・対策、関連する諸制度、政府や市民の役割などについて考察する。 | 1. 現代社会における様々な営みが、環境に対して大きな負荷を与え続けてきたことを、十分に説明できる。 2. 環境負荷の健康や生態系への影響を科学的に評価するための方法や環境の現状について、十分に説明できる。 3. 環境負荷の低減技術・対策、関連する諸制度などについて、十分に説明できる。 4. 環境保護における政府や市民の役割について、授業で得られた十分に知識を活用しながら、自分の考えを述べる事ができる。 | 1. 現代社会における様々な営みが、環境に対して大きな負荷を与え続けてきたことについて、最低限の説明ができる。 2. 環境負荷の健康や生態系への影響を科学的に評価するための方法や環境の現状について、最低限の説明ができる。 3. 環境負荷の低減技術・対策、関連する諸制度などについて、最低限の説明ができる。 4. 環境保護における政府や市民の役割について、授業で得られた知識を最低限活用しながら、自分の考えを述べる事ができる。 |
| 人間とは何か | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 自己という存在に対する哲学・倫理学をはじめとしたさまざまな学問的アプローチによる考察を通じて、人間という存在の何であるか、つまりは「である存在」すなわち「本質存在」を理解すると同時に「がある存在」すなわち「事実存在」に対しても実存論的に考察する。こうした人間の本質存在・事実存在を考察することにより、人間として生きることの意味とは何かに加えて、社会的責任とは何かといったことへの理解を深め、社会における人間の行動や役割についても具体的に思考する。 | 1. 「人間とは何か」という素朴な問いの意味を理解できる。（知識・理解） 2. 「本質存在」と「事実存在」についての違いを哲学的に理解し、説明することができる。（知識・理解） 3. 「人間とは何か」という問いに答えるためのさまざまな学問的アプローチがあることを理解できる。（知識・理解） 4. 人間が有する「理性」「感性」とは何か、またその違いと働きについて哲学的に理解し、説明できる。（知識・理解） 5. 「演繹法」と「帰納法」の違いを哲学的に理解し、思考に応用できる。（思考・判断・表現） 6. 「弁証法」について哲学的に理解し、思考的に応用できる。（思考・判断・表現） 7. 「実存」とは何か、哲学的に理解し、説明できる。（知識・理解） 8. 実存哲学および実存主義の歴史的展開を理解できる。（知識・理解） 9. 「人間とは何か」という問いに対して、少なくとも一つのアプローチから答えることができる。（思考・判断・表現） 10. 社会における人間の行動や役割について、具体的に自己の思考を展開することができる。（思考・判断・表現） | 1. 「人間とは何か」という素朴な問いの意味を理解できる。（知識・理解） 2. 「人間とは何か」という問いに答えるためのさまざまな学問的アプローチがあることを理解できる。（知識・理解） 3. 人間が有する「理性」「感性」とは何か、またその違いと働きについて哲学的に理解できる。（知識・理解） 4. 「実存」とは何か、哲学的に理解できる。（知識・理解） 5. 実存哲学および実存主義の歴史的展開を理解できる。（知識・理解） 6. 「人間とは何か」という問いに対して、少なくとも一つのアプローチから答えることができる。（思考・判断・表現） |
| 人間関係と自己表現 | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 自己が他者無しには存在しないように人間は人と人との関係の中に存在している。社会的存在としての人間にとってその関係は実に様々な形をとり、そこには多様なコミュニケーションが存在する。そのような関係のあり方を把握し、多様なコミュニケーションの仕方を探求することで、自己を表現することの方法やその大切さを学ぶ。特に、コミュニケーションの仕方によって、他者との関係がどのように変化し、ひいては自己理解がどのように変化していくのか、そういった体験を通して、コミュニケーションと表現の大切さを学んでいく。 | 1. 人間関係にまつわる様々な心理学的知見に関して、理論と関連づけて説明できる（知識・理解）。 2. 他者との円滑なコミュニケーションのための技法を、実践例をふまえて説明できる（知識・理解）。 3. 自己と他者とのコミュニケーションのあり方について、多様な角度から考察できる（思考・判断・表現）。 4. 豊かな人間関係を構築するためのふるまいを身につける意欲を、具体的な目標と共に表現できる（関心・意欲・態度）。 | 1. 人間関係にまつわる様々な心理学的知見に関して、基本的な事項を説明できる（知識・理解）。 2. 他者との円滑なコミュニケーションのための技法を説明できる（知識・理解）。 3. 自己と他者とのコミュニケーションのあり方について考察できる（思考・判断・表現）。 4. 豊かな人間関係を構築するためのふるまいを身につける意欲を表現できる（関心・意欲・態度）。 |
| 現代の家族 | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 生活の多くの部分が社会化されてきた現代において、家族の意味や役割は大きく変化してきている。本科目では、超少子高齢化を迎えるこれからの社会において子育て支援や高齢者の介護など現代の家族を取り巻く多様な課題を取り上げながら、家族および個人・社会との関係やその影響について客観的な視点から考え、理解を深める。 | ・現代の家族を取り巻く課題について、独自の考えを持って説明できるようになる。 ・家族および個人・社会との関係やその影響について、客観的な視点で理解できるようになる。 | ・現代の家族を取り巻く課題について、講義の範囲内でおおた説明できるようになる。 ・家族および個人・社会との関係やその影響について、講義の範囲内でおおた理解できるようになる。 |
| 地域社会と福祉 | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 現代においては地域社会（コミュニティ）の中で生活者を取り巻く多様な課題が存在する。これらの課題を解決していく上で、地域社会の果たす役割が見直されつつある。本科目では、地域社会の中で生活者を取り巻く社会保障、特に社会福祉に関わる仕組みや実際の支援の内容を踏まえ、誰もが暮らしやすい地域社会のあり方について考え、理解を深める。 | ・社会保障の基礎知識について、具体的な内容を説明できるようになる。 ・社会福祉の現状について、具体的な内容を説明できるようになる。 ・生活者にとっての支援のあり方について独自の考えを加えながら、説明できるようになる。 | ・社会保障の基礎知識について、その概要を説明できるようになる。 ・社会福祉の現状について、その概要を説明できるようになる。 ・生活者にとっての支援のあり方について講義の範囲内で説明できるようになる。 |
| 女性と社会 | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 女性の社会進出がうたわれて久しい現在、男女格差を是正するための法的整備は進みつつあるものの、依然としてライフコースの各段階で女性はさまざまな困難に直面している。この科目では、ジェンダー・フリーの視点から、とくに女性が直面する社会的課題とその背景、またそれらを解決するための方法、歴史上の経験について理解するとともに、自己の意識改革と社会への働きかけの重要性を学ぶ。 | 1. 女性の社会的地位の歴史とその権利獲得のためのたたかいの歴史を理解できるようになる。 2. 女性が直面する社会的課題とその背景について理解できるようになる。 3. 2を解決するための方法を理解できるようになる。 4. 1～3を「自分ごと」として認識し、その思考の成果を口頭で発表したり文章にしたりできるようになる。 | 1. 女性の社会的地位に関する歴史を理解できるようになる。 2. 女性が直面する社会的課題について理解できるようになる。 3. 2を解決するための方法を理解できるようになる。 4. その成果を発表したり文章にしたりできるようになる。 |
| マーケティング | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | この科目の目的は、マーケティングの基礎的な考え方や知識を習得することにある。消費者と市場環境を理解するための基礎的な知識と、それらから企業などのマーケティング活動を導き出すための考え方を身につける。マーケティング活動には、消費者から観察可能なものが多い。また、日常の買い物行動を振り返って考えるだけでも、マーケティングの学びにつながる。日ごろから意識をもって観察し、企業などの意図を推測する習慣を身につけることで、理解を深めていく。 | 1. この授業で紹介されるマーケティングの基礎的な概念や理論を理解している。 2. 上記の概念や理論を使って問題を自分の頭で整理し、自分のことばで他者に明確にその問題の本質を書いて、また話して伝えることができる。 | 1. この授業で紹介されるマーケティングの基礎的な概念や理論の大半について理解している。 2. 上記の概念や理論を使って問題を自分の頭で整理し、自分のことばでその問題の本質を書いて、また話して伝えることができる。 |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|----------------|--------------------------------|----|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ライフプランとキャリアプラン | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 将来社会に出て、生活してゆくために、自分の生き方について考えるとともに、自分の人生において働くことをどう位置づけ、意味づけるか、また働くことを家庭生活や市民生活にどう関連づけるかを考察する。その上で、自らキャリアを開発し、エンployアビリティ（実践的就業能力）を保ち、高めてゆくための方法を理解する。また、実際に自己分析を通じて自己理解を深めると同時に、自己啓発の方法と計画を作成し、キャリア形成プランの作成を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の生き方について考え、働くことを家庭生活や市民生活と具体的に関連づけることができる。（知識・理解） コミュニケーション能力や人間関係構築能力などエンployアビリティを高める方法を具体的に示すことができる。（知識・理解） 自己分析の方法を具体的に示すとともに、自己理解を深めることができる。（知識・理解） 自分の生き方や働き方について、ライフプランやキャリアプランを作成することから、キャリア形成と関連づけながら具体的に述べるができる。（思考・判断・表現） 自己実現に向けて、自己啓発やキャリア形成プランの作成を積極的に行うことができる。（関心・意欲・態度） | <ul style="list-style-type: none"> 自分の生き方について考え、働くことを家庭生活や市民生活と関連づけることができる。（知識・理解） コミュニケーション能力や人間関係構築能力などエンployアビリティを高める方法を示すことができる。（知識・理解） 自己分析の方法を示すとともに、自己理解することができる。（知識・理解） 自分の生き方や働き方について、ライフプランやキャリアプランを作成することから、具体的に述べるができる。（思考・判断・表現） 自己実現に向けて、自己啓発やキャリア形成プランの作成を行うことができる。（関心・意欲・態度） |
| 企業・組織の仕組み | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 将来、企業・組織に就職するにあたり、就職に関して明確な目的意識や心構えを持つとともに、有効な就職活動を行うために、企業・組織の仕組みの基礎知識を学ぶ。特に近年では企業・組織を取り巻く環境が大きく変わっている。そのような環境において、企業・組織が現在どのような課題に直面しているかを理解すると同時に、特に営利組織である「会社」について、その種類と機関の仕組み、業務の仕組み、経営の仕組み、業績評価の仕組み、企業の類型と分析、企業統治（コーポレートガバナンス）の仕組みが実際にどのようなになっているかを理解する。 | 企業・組織のしくみについて、自分自身の問題として落とし込み、独自の考えを加えながら説明できる。（知識・理解） | 企業・組織のしくみについて、教科書ならびに講義で配布した資料の範囲内で説明できる。（知識・理解） |
| 総合表現ワークショップ | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 実在する組織が抱える課題に取り組むプロジェクト型学習を通じて、受講生は「リーダーシップとは何か？」を体感を通じて理解を深める。提案立案のプロセスの中で、基礎的なビジネスプラン作成をグループ活動を通じて行い、必要となるビジネスの知識や基本スキルと、プロジェクト内で求められるリーダーシップを同時に実践的に身に付ける。受講生は前期に考察した「自分らしいリーダーシップ」の発揮を体現し、他者のリーダーシップ発揮の支援も行うことで、チームの成果を高めることをめざす。 | <ul style="list-style-type: none"> 実在する組織が抱える課題に取り組むプロジェクト型学習を通じて、受講生は「リーダーシップとは何か？」を体験も踏まえて理解し、他者に自分の言葉で説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 提案立案のプロセスの中で、必要となるビジネスの知識や基本スキルを身に付け、基礎的なビジネスプランをグループ内で協力して完成することができる。（技能）（思考・判断・表現） プロジェクト内で求められるリーダーシップを実践し、前期に考察した「自分らしいリーダーシップ」の発揮を体現することができる。（関心・意欲・態度） チーム活動におけるメンバーそれぞれの関わりを観察し、必要に応じて、他者のリーダーシップ発揮支援を行うことで、チームの成果を高めることができる。（関心・意欲・態度）（技能） | <ul style="list-style-type: none"> 実在する組織が抱える課題に取り組むプロジェクト型学習を通じて、受講生は「リーダーシップとは何か？」を体験も踏まえて理解することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 提案立案のプロセスの中で、必要となるビジネスの知識や基本スキルを知り、基礎的なビジネスプラン作成に取り組むことができる。（技能）（思考・判断・表現） プロジェクト内で求められるリーダーシップを観察し、前期に考察した「自分らしいリーダーシップ」の発揮の必要性を認識することができる。（関心・意欲・態度） チーム活動におけるメンバーそれぞれの関わりを観察することができる。（関心・意欲・態度）（技能） |
| 自己開発 | 教養教育科目 教養ユニット 社会人としての教養 | 2 | 1・2・3・4 | 学生が自らの意志において、学内、学外を問わず、自己開発のために積極的に活動を起こし、社会や異文化との交流を積極的に行って、豊かな人間性を涵養する。海外の協定校で行われる海外研修（外国語の修得と異文化体験を目的とする）への参加、本学所定のボランティア活動への参加を通じて高い倫理性・責任感の養成や異文化理解をめざす。 | <ul style="list-style-type: none"> 自己意志による自己開発の活動を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができる。（関心・意欲・態度） 創造的に人生を送るための問題意識や好奇心をしっかりと身につけることができている。（関心・意欲・態度） | <ul style="list-style-type: none"> 自己意志による自己開発の活動を通して、自分の人生観や世界観をある程度広げることができる。（関心・意欲・態度） 創造的に人生を送るための問題意識や好奇心をある程度身につけることができている。（関心・意欲・態度） |
| 文学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・3・4 | 文学は言葉を持つ人間の基本的かつ根源的営みであり、有史以来のあらゆる文明・文化の核心部分を構成し続けてきた。本講義では、文学とは何か、また文学表現の特質とは何か、という問題を、古今東西の文学作品を通して考えるとともに、文学を解釈し、研究するためのさまざまな方法論を学ぶ。具体的には、文学ジャンル、文学史、文学運動などに関する基礎的知識を身につけるとともに、時代や社会、風土との関連、宗教や哲学、美術や音楽などの精神文化との関連、言語学、歴史学、社会学、心理学等の諸科学との関連、作品の構成、テーマ、文体等の捉え方、比較文学の方法などについて考察する。 | <ol style="list-style-type: none"> 文学ジャンル、文学史、文学運動などに関する基礎的知識を身につけ、説明することができる。 時代や社会、風土との関連、他の精神文化や諸科学との関連で文学を捉え、文学表現の特質を説明することができる。 作品の構成、テーマ、文体等の捉え方や比較文学の方法をふまえて、文学を解釈し、研究するためのスキルを身に付け、使いこなせるようになる。 | <ol style="list-style-type: none"> 文学ジャンル、文学史、文学運動などに関する基礎的知識を最低限は身につけている。 時代や社会、風土との関連、他の精神文化や諸科学との関連で文学を最低限は捉えられる。 作品の構成、テーマ、文体等の捉え方や比較文学の方法をふまえて、文学を解釈し、研究するためのスキルを最低限は身につけている。 |
| 哲学概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・3・4 | 哲学の主要関心は、古来、対自然、対人間、対超越とされ、それぞれの対象の本質的意義に関する論理的探究が積み重ねられてきた。この中でも特に対人間への関心は、そもそも対自然、対超越に関心を示す人間自身を問うものでもあり、両者への関心の何たるかを考える包括的視点を内包させていると言われている。その点で、対人間への探求の視点は哲学の枢要に位置するものとされる。そこで本講義では、概論として、対人間に関する哲学の視点を概観することにするが、特に哲学の歴史的成果を踏まえて、現代におけるその代表的立場の幾つかを概説することにする。加えて現代における人間疎外の諸問題（孤独・貧困・地域紛争等）についても哲学的視点を踏まえて触れる。さて、和辻哲郎によれば、人間とはそもそも「世の中・世間」の意であり、本来の意味は社会のことであるという。さらにまた社会とは人と人との間（関係）によって成り立っているとされ、この関係が個人の存在を規定するという（関係の第一義性）。そこでまず人間の関係の在り方を理解するために、哲学の所謂関係主義の立場と、それと対立する実存主義（個人の第一義性）の立場を対比させて講じる。次に基礎的確認として人間（社会）の在り方（様相・構造・システム）の歴史的変遷を具体例に触れながら概観する。以上を踏まえて、人間の本質的在り方及び現代の人間疎外の根本原因について、ハイデgger、フーバー、アレントなど現代を代表する哲学者たちの学説を概説する。また現代の哲学における対自然（自然科学との対決）、対超越（宗教との対決）の在り方についても一瞥する。 | <ol style="list-style-type: none"> 人間に関する関係主義的理解と実存主義的理解について論理的分析的に説明できるようになる。（思考・判断・表現） 人間（社会）の在り方の歴史的変遷について具体例を示しながら説明できるようになる。（知識・理解） 人間の本質に関する現代の代表的哲学説を専門概念を用いて説明できるようになる。（知識・理解） 現代の人間疎外の本質に関する哲学説を論理的に説明し、自分の言葉で敷衍出来るようになる。（思考・判断・表現） | <ol style="list-style-type: none"> 人間に関する関係主義的理解と実存主義的理解について概説的に説明できるようになる。（思考・判断・表現） 人間（社会）の在り方の歴史的変遷について概説できるようになる。（知識・理解） 人間の本質に関する現代の代表的哲学説を概説できるようになる。（知識・理解） 現代の人間疎外に関する哲学説を論理的に説明出来るようになる。（思考・判断・表現） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------|--------------------------------|----|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 倫理学概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 人間関係のあり方、ものの考え方など、倫理的問題系への関心を高め、現代社会において倫理学が果たす意義は何かについて議論を深める。近代以降、科学への信仰によってもたらされた人間観は、経験、知覚その他を含むすべての人間のあり方を根底から変えてきた。こうした人間概念の近代的変容について考える際に、人間関係のあり方、ものの考え方、自己とは何か、他者とは何かといった、現代に不可欠な倫理的問題系をテーマとすることで、現代世界を倫理的に考察するための基礎的な考え方を涵養する。 | ・人間関係のあり方、ものの考え方など倫理のさまざまな問題、また、近代以降の科学信仰によってもたらされた人間概念の変容について、明確に説明することができるようになる。 ・自己や他者をめぐる倫理学の考え方を身につけた上で、みずから問いを立て、倫理学の発想を用いて深く考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる。 | ・人間関係のあり方、ものの考え方など倫理のさまざまな問題、また、近代以降の科学信仰によってもたらされた人間概念の変容について、明確に説明することができるようになる。 ・自己や他者をめぐる倫理学の考え方を学んだ上で、みずから問いを立て、倫理学の発想を用いて自分なりに考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる。 |
| 言語学概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 言語学は、複雑多様な言語現象を科学的に分析しその特徴や性質（構造と機能）を明らかにしようとする学問である。本講義では、そうした言語学の基本的な考え方を、まずは語の仕組み（形態論）、文の仕組み（統語論）、音声の仕組み（音声学・音韻論）、言語変化（語史）などの観点から理解し、さらには語・文の意味（意味論）、言葉の使用・コミュニケーション（語用論）、言葉のバリエーション（社会言語学）、言葉の習得（心理言語学）などの分野についても理解する。また以上のような言語学の概念と方法を用いて、日本語と諸外国語（特に英語）とを比較検討しそれぞれの特性を考察する。 | ・形態論、統語論、音声学・音韻論、語史、意味論、語用論、社会言語学、心理言語学といった言語学の基本的な考え方を正確に説明できるようになる。 ・言葉に対するさまざまな問題意識の持ち方を身につけ、みずから問いを立て、言語学の考え方をを用いて深く考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる。 | ・形態論、統語論、音声学・音韻論、語史、意味論、語用論、社会言語学、心理言語学といった言語学の基本的な考え方をある程度正確に説明できるようになる。 ・言葉に対するさまざまな問題意識の持ち方を学び、みずから問いを立て、言語学の考え方をを用いて自分なりに考察することができるようになる。 ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる。 |
| 心理学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 心理学とは、人間理解を目的とした学問である。そのため、この講義では、1.各々の受講生が心理学に関する幅広い知識を習得し、自分自身に引きつけて、人間について思いを巡らすことを通じて、人間理解の方法に関する基本的枠組みを形づくること、2.修得した知識、技能等を日常生活に役立てられるようになること、の2点を学ぶ。 | 1.心理学の基礎的な概念を理論と関連づけて説明できる（知識・理解）。 2.心理学研究の技法を、実践例をふまえて説明できる（知識・理解）。 3.心理学の理論に基づいて日常生活の出来事を分析し考察できる（思考・判断・表現）。 4.心理学の知識を対人関係や日常的なメンタルヘルスの改善に活かそうとする意欲を、具体的な目標と共に表現できる（関心・意欲・態度）。 | 1.心理学の基礎的な概念を説明できる（知識・理解）。 2.心理学研究の技法を説明できる（知識・理解）。 3.心理学的の概念に基づいて日常生活の出来事を考察できる（思考・判断・表現）。 4.心理学の知識を対人関係や日常的なメンタルヘルスの改善に活かそうとする意欲を表現できる（関心・意欲・態度）。 |
| 教育学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 教育学は、だれもが経験するごく身近な事象である人間形成行為としての教育と、教育に関わる諸条件を客観的＝科学的に解明し、理論化しようとする学問である。授業では、まず「教育とは何か」からはじめて、日本の教育の歴史を概観した上で、受講者各自が日本の教育、世界の教育の明日を展望・創造する手がかりとなるような「現代社会と教育」に関わるトピックを取り上げ、共に考えることを通じて、教育を専門的に学ぶための素地を固める。 | ・自らの生育歴や学校歴を振り返り、日本及び諸外国における教育の機会を保障するしくみ、そしてその整備の歴史的経緯を理解している。 ・日本と諸外国の歴史を比較して、教育という営みの目的と構造の不易／流行を整理し、説明することができる。 ・日本及び諸外国の教育に関わる様々な社会問題を分析し、その具体的な改善提案書を作成。それに基づくプレゼンテーションを行い、他の受講生と議論することができる。 | ・自らの生育歴や学校歴を振り返り、日本社会が整えている教育の機会を保障するしくみを理解している。 ・日本の教育の歴史を通して、教育という営みの目的と構造の不易／流行を整理できる。 ・日本の教育に関わる様々な社会問題を分析し、その改善策について提案し、他の受講生と意見を交換できる。 |
| 社会学概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 近代の社会科学の多く（経済学、法学、政治学等）が、その対象領域を厳密に限定しつつ、専門分化的に発展してきたのに対して、社会学は、論理と実証に基づく経験科学でありつつ、しかも、あらゆる社会事象を対象とし、そのさまざまな側面を横断的、統合的に捉えようとする開かれた学問として成立した。それゆえ社会学は、もともと、工業化、都市化、情報化といった近代社会のマクロな変動を捉えるのに適した認識方法であったが、その柔軟性、包括性のゆえに、現代が直面するマクロな社会変動からミクロな人間関係の変化に至る諸問題——すなわち、グローバリゼーションの問題、環境問題、民族問題、宗教対立の問題から、地域社会の問題、家族の問題、高齢化の問題、ジェンダーの問題、子供の問題に至るまで——に対しても有効な認識方法であり続けている。そうした社会学の成立と発展の跡を辿りつつ、その基礎概念と方法を理解したうえで、社会学が実際に現代社会の諸問題をどう捉えているかを学ぶ。 | ・授業を通して得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げる。 ・社会的な問題意識と社会学的方法論を用いて、現代社会の諸問題がどのように論じられているかを説明する。 | ・授業を通して得た教養を通して自分の人生観や世界観を最低限広げる。 ・社会的な問題意識と社会学的方法論を用いて、現代社会の諸問題がどのように論じられているかを最低限説明する。 |
| 文化人類学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 文化人類学とはどのような学問なのだろうか。その研究対象は何か、その方法論はいかなる特徴を持つのか、そしていったい何をあきらかにしようとしているのかを理解する。この学問の発展、展開（学説史）について学び、具体的なテーマとして儀礼と象徴、民族とエスニシティ、文化とジェンダー、家族、子どもなどを題材に、現在、何が問題になっているのかについて学ぶ。 | 1.文化人類学の研究対象、方法論について総合的に説明できる（知識・理解）。 2.学説史をふまえ、ほかの学問分野との類似・相違について説明できる（知識・理解）。 3.文化の持つ政治経済的な側面について理解できる（知識・理解）。 4.文化にまつわる権力関係について具体的な事例を用いて説明できる（思考・判断・表現）。 5.文化人類学の主な手法である聞き取り調査を実際に行い、レポートにまとめる（思考・判断・表現）。 6.そのレポートをもとに指定された時間でプレゼンテーションができる（指定・判断・表現）。 7.文化人類学で学んだ諸概念ならびにアプローチについて、正確に理解し、自分の言葉で説明できる。（知識・理解） | 1.文化人類学の研究対象、方法論について総合的に説明できる（知識・理解）。 2.文化の持つ政治経済的な側面について理解できる（知識・理解）。 3.文化人類学の主な手法である聞き取り調査を実際に行い、レポートにまとめる（思考・判断・表現）。 4.そのレポートをもとに指定された時間でプレゼンテーションができる（指定・判断・表現）。 5.文化人類学で学んだ諸概念ならびにアプローチについて、概要を理解して説明できる。（知識・理解） |
| 民俗学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 民俗学では、生活の基層にあるさまざまな生活習慣、精神の事象、言葉、あるいは生活道具等、文化として自覚されにくいものに光をあて、そこにわれわれの文化の様相、あるいは精神の構造を、歴史とは違った視点で解き明かしていく。その解き明かしを通して、人間や社会を柔軟かつ多様に把握しうる力を学んでいく。 | ・民俗学が何を学ぶ学問であるかを具体的に述べる事が出来る。（思考・判断・表現） ・われわれの生活の基層にある文化の諸相、精神の構造について解き明かす民俗学的知見を身につけている。（知識・理解） ・民俗学的知見によるもの見方を通して、人間や社会を柔軟かつ多様に把握しうる力を身につけている。（知識・理解） | ・民俗学が何を学ぶ学問であるかをある程度述べることが出来る。（思考・判断・表現） ・われわれの生活の基層にある文化の諸相、精神の構造について解き明かす基礎的な民俗学的知見を身につけている。（知識・理解） ・民俗学的知見によるもの見方を通して、人間や社会を柔軟かつ多様に把握しうる力をある程度身につけている。（知識・理解） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-----------|--------------------------------|----|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 人文地理学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 人文地理学とは、地球上の空間に展開する人文現象を総合的に把握する学問である。その対象は、宗教、言語などの文化的事象から、産業などの経済活動、都市や農村における居住など、多岐にわたる。そしてこれら諸事象の相互作用や環境との交渉により表象する空間現象の仕組みを解明することが、人文地理学の目的である。この講義では、人文地理学の基礎的概念を学修し、文化、社会、産業、居住などの人文現象を地理学的に理解する視座を学修する。 | ・人間活動の地理的分布についての様々なテーマを的確に設定し、その特徴を人文地理学的に理解できる。（知識・理解） ・地形図などの地図に表現された内容から、授業で扱うテーマに関する情報を抽出し具体的に説明できる。（思考・判断・表現） ・地図やグラフなどから抽出した情報を、地理学の専門用語を用いて具体的に説明できる。（思考・判断・表現） | ・人間活動の地理的分布についての2～3のテーマを設定して、その特徴を人文地理学的に理解できる。（知識・理解） ・地形図などの地図に表現された内容を、授業で扱う内容に関連付けて考えることができる。（思考・判断・表現） ・地図やグラフなどから抽出した情報を、最低限度の専門用語を用いて説明できる。（思考・判断・表現） |
| 自然地理学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 自然地理学とは、私たちを取り巻く自然環境と人間との関係を解明し考察する学問である。私たちの生活は、地形、気候、水文、植生などの様々な自然環境の影響を受けている。この講義では、現代人の生活が、自然環境からどのような影響を受け、どのように結びついているのかを理解するために、地形、気候、水文など身近な自然環境の特徴を自然地理学的視座から学修する。 | ・世界各地の地形、気候、水文、植生など様々な自然環境の特徴を、自然地理学の専門用語を用いて具体的に説明できる。（知識・理解） ・自然環境と人間生活の関係を十分に理解し、自然災害など自然環境の急変に対応するための方法を主体的に提言できる。（思考・判断・表現） ・地形図に記載された情報を十分に理解したうえで、そこに記載された地形、植生などの自然環境の特徴を具体的に説明できる。（思考・判断・表現） | ・世界各地の地形、気候、水文、植生などについてのいくつかの自然環境の特徴を、最低限の専門用語を用いて説明できる。（知識・理解） ・自然環境と人間生活の関係をある程度理解し、自然災害など自然環境の急変に対応するための方法を考えることができる。（思考・判断・表現） ・地形図に記載された情報をある程度理解したうえで、その内容を自然地理学的に説明できる。（思考・判断・表現） |
| 地誌学概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 地誌学とは、地域の特徴、すなわち地域性を総合的に記述することを目的とした地理学の一分野である。この講義では、地誌学を理解するための「地域」「景観」「場所」といった地域理解のための基本的概念を身に着けたうえで、ミクロな地域スケールからマクロな地域スケールまで、様々な空間次元で地域を設定しつつ、地域を総合的に理解する方法を学修する。 | ・景観論、地域論、空間論などの専門的理論を理解したうえで、それらの用語を的確に用いて地域の特徴を具体的に説明できる。（知識・理解） ・地形図などの地図に記載された内容から、その地域の特徴を具体的にかつ総合的に説明できる。（思考・判断・表現） ・地域の次元を様々なスケールで設定し、それぞれの地域の特徴を地理学の専門用語を用いて具体的にかつ総合的に説明できる。（思考・判断・表現） | ・景観論、地域論、空間論などに関する最低限の専門用語を用いて地域の特徴を説明できる。（知識・理解） ・地形図などの地図に記載された内容から、その地域の特徴をある程度説明できる。（思考・判断・表現） ・地域の次元を異なるスケールで設定する方法を理解したうえで、ひとつの地域の特徴を地理学の専門用語を用いて説明できる。（思考・判断・表現） |
| 法学概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 先ず「法とは何か」、法と道徳の違い、社会生活のルール、法と強制、権利と義務について学ぶ。法は国家の政治的な権力作用を背景に強制される行為規範であることを理解する。次いで法と裁判、法の解釈と適用、裁判の基準（成文法源と不文法源）、法の体系、法の分類（公法・私法・社会法、一般法・特別法、国家法・国際法など）の問題を取り上げる。さらに近代国家と憲法、民法や企業法、刑法、訴訟法など主要な法の概要を考察する。 | ・成人年齢によりどのような法的な権利・義務が異なるのかについて総合的に理解できる。 ・労働法分野で自らに関連する事項について理解し、それらを実生活で活用できる。 ・婚姻、離婚などに伴う法的な問題について、総合的な知識を獲得する。 ・生殖医療に関する法的な問題について総合的に把握ができ、議論することができる。 | ・成人年齢に達した場合の法的な権利・義務について基礎的な事項を理解できる。 ・労働法分野についての基礎的な事項を把握できる。 ・婚姻および離婚に伴う法的な基礎的問題について理解できる。 ・生殖医療についての法的問題の基礎について理解できる。 |
| 法学（日本国憲法） | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 国の最高法規である日本国憲法と、憲法に基づき制定される法律は、社会制度の基盤をなしており、私たちの生活に日々関わっている。この講義ではまず「法とは何か」について考える。法と道徳の相違点、法の分類、裁判制度、裁判における法の解釈や適用の問題など、法学の基礎理論を学習することにより、法の役割・性質を理解する。次に、近代国家の形成の中で憲法が生じた過程を学習し、憲法の考え方の基本を理解する。その上で、日本国憲法の制定の歴史、憲法の基本原則、憲法の保障する権利、憲法の定める国家の統治組織の仕組み等を学習し、法と私たちの生活との関わりについて理解する。 | ・法の役割・性質について、講義で学習した様々な角度から説明することができる（知識・理解）。 ・憲法の考え方の基本について、講義で学習した内容を踏まえて説明することができる（知識・理解）。 ・日本国憲法について、その制定過程・基本原則・憲法の保障する権利と憲法に定める統治機構の仕組みを説明することができる（知識・理解）。 ・法と私たちの生活との関わりを理解し、法が形作る社会制度のあり方について、自身の考えを示すことができる（思考・判断・表現）。 | ・法の役割・性質について、講義で学習した概念を理解し適切な文脈で用いることができる（知識・理解）。 ・憲法の考え方の基本について、講義で学習した概念を理解し適切な文脈で用いることができる（知識・理解）。 ・日本国憲法について、その制定過程・基本原則・憲法の保障する権利と憲法に定める統治機構の仕組み等について基礎的な事項を理解し、講義で学習した語句等を適切な文脈で用いることができる（知識・理解） |
| 政治学概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 政治とは、社会における紛争を解決し、対立を調整しながら、社会の秩序を維持する人間の活動であり、政治学は、個人や集団の利害や価値をめぐる紛争や対立について研究し、それらをどのように調停できるかを考える学問である。この授業は、政治学の入門科目であり、まず選挙や政党、議会など政治制度の基礎概念を理解し、次に政治過程に関わる政治関係、利益集団、地方自治、社会運動、非営利団体、メディア、ジェンダーなどの働きや役割を分析するための基本的な手法を身につける。特に、日本社会における紛争や対立の解決に政治がどのように取り組んでいるかに注目し、日本の政治の特徴と問題点を実際の事例を交えながら考察する。 | 1. 政治学の基礎概念について、社会科学の用語を用いて正確に説明できる。（知識・理解） 2. 日本社会における利害や価値をめぐる紛争や対立の事例を見出し、政治学の基礎概念を用いて分析することができる。（思考・判断・表現） | 1. 政治学の基礎概念について、基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2. 日本社会における利害や価値をめぐる紛争や対立の事例を見出すことができる。（思考・判断・表現） |
| 経済学概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 基礎的な経済理論を学習する。最初に、経済学が対象とする合理的な個人、その行動を組織化する市場、これらに基づく経済学の科学としての性格、またその限界等について触れる。その後、交換のメリットを理解するため、比較優位の理論について学ぶ。続いて市場、競争、需要、供給、均衡の概念を学び、市場による資源の配分が好ましい性質を持つことを理解する。また、市場による配分がうまくいかないケース、政府の役割等も学習する。さらに、GDP、物価、インフレーション等のマクロ経済学の概念にも触れ、短期のGDPやインフレ率決定の理論も学習する。 | 現実に日本や世界経済で発生している現象に興味を持ち、学習した理論を応用して、自らそれらを解明する能力を身につける。 | 経済学の様々な概念に興味を持ち、それらを用いた理論を理解するとともに、理論展開で用いられるグラフ等を自ら利用して、基礎的な問題が解けるようになる。 |
| 国際関係概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 現在の国際関係を理解するうえで重要な基本的な概念や理論を学ぶとともに、国際社会を構成するさまざまな主体や集団、国際的な原則や諸制度の特質に関する理解を深める。また国際関係における暴力と平和の問題や諸国家間の協力的な問題について自分なりに考察するための基礎的な知識を習得する。そのうえで国際社会に生きる一員として何ができるか、国家の政策はどのようにあるべきかを、具体的に考察する。 | 現在の国際秩序に関する概念的な理解を深めるとともに、国際社会におけるさまざまな主体や集団、国際的な原則や諸制度の特質、そして国際関係における暴力と平和や協力的な問題について理解できる。また国際関係で起こるさまざまな問題について自分なりに考察できる。（知識・理解） | 現在の国際秩序に関する概念的な理解を深めるとともに、国際社会におけるさまざまな主体や集団、国際的な原則や諸制度の特質、そして国際関係における暴力と平和や協力的な問題について理解できる。（知識・理解） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------|--------------------------------|----|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 世界史概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | グローバル・ヒストリーの観点から、日本を含めた世界の諸地域（ヨーロッパ、アジア、アフリカなど）にかんして、時代の流れの中で各地域がどのように結びつき、それはどのような政治的、経済的、軍事的な文脈において起こったものであるのか、そしてその結びつきは社会的、文化的にどのような影響を各地域に与え、次の時代の前提となったのかについて理解する。この観点から、古代（ローマ帝国から中国）、中世（十字軍）、近世（大航海時代から初期植民化）、近代（帝国主義）、現代（脱植民地化と21世紀のグローバル化）について、重点を置きつつ具体的に考察する。 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史が、各地域で独立して存在しているのではなく、相互の結びつきの中で形成されていることを十分に理解し、解釈できるようになる（知識・技能）。 それぞれの時代における世界の各地域の結びつき方（結びつける要因）について、具体的に説明することができる（知識・理解）。 それぞれの時代の各地域の状況について、その概要を正確に説明することができる（知識・理解）。 現在のグローバル化を歴史的な背景から具体的に解釈することができる（知識・技能）。 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史が、各地域で独立して存在しているのではなく、相互の結びつきの中で形成されていることを理解し、解釈できるようになる（知識・技能）。 それぞれの時代における世界の各地域の結びつき方（結びつける要因）について、最低限の説明をすることができる（知識・理解）。 それぞれの時代の各地域の状況について、その概要を説明することができる（知識・理解）。 現在のグローバル化を歴史的な背景から一定の解釈をすることができる（知識・技能）。 |
| 日本史概論 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 文学・芸術をはじめとするさまざまな文化には、それぞれ固有の歴史や時代背景がある。そして、国家や社会はそのうえに成立している。講義内容は通史を原則とするが、いわゆる「広く浅く」歴史の表面をなぞるのではなく、特定の時代や分野にウエイトをおきつつ、日本史の通史や全体史を意識した講義内容となる。また、「日本」史とはいうものの、視点を日本国内のみに閉ざすのではなく、世界史の展開に目を向けつつ、日本歴史の基礎を学ぶ。 | 講義の内容を十分に理解し、取り上げられた日本史の歴史的事象のうち、基本的な事柄について十分に説明することができる（知識・理解・表現）。 | 講義の内容を理解し、取り上げられた日本史の歴史的事象のうち、基本的な事柄について説明することができる（知識・理解・表現）。 |
| 地域史 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 歴史を深く学ぶには、世界の歴史の流れを巨視的かつ概括的に捉える通史や全体史だけでは不十分であり、ある特定の地域の特定の時代の歴史の具体的な動きを詳細かつ克明に捉える地域史による肉付けが必要である。本講義では、ヨーロッパ、アジア、イスラム圏、アメリカ、そして日本における、特定の地域の特定の時代に関する歴史の動きを、当時の政治・経済・社会の構造を踏まえつつ、宗教や文学・芸術等の精神文化とも関連させ、また個別の事件や人物にも詳しく触れながら、具体的に考察してゆく。 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の各地域の近代史について、十分な知識を有している。（知識・理解） 世界の各地域の近代史について、政治・経済・社会・宗教・文学・芸術など幅広い側面と関連づけながら、十分に理解している。（知識・理解） 世界の各地域の近代における個別の事件や人物について、十分な知識を有している。（知識・理解） 世界の各地域の近代史について自分の見解を持ち、それを明快な文章によって表現することができる。（思考・判断・表現） 世界の他の地域の近代史についても十分な知識を有し、他地域との関係を十分に理解し、他地域の近代史と比較しながら考えることができる。（知識・理解） | <ul style="list-style-type: none"> 世界の各地域の近代史について、一定の知識を有している。（知識・理解） 世界の各地域の近代史について、政治・経済・社会・宗教・文学・芸術など幅広い側面と関連づけながら、基本的に理解している。（知識・理解） 世界の各地域の近代における個別の事件や人物について、一定の知識を有している。（知識・理解） 世界の各地域の近代史について自分なりに考察し、それを表現することができる。（思考・判断・表現） 世界の他の地域の近代史についても一定の知識を有し、他地域との関係を基本的に理解し、他地域の近代史と比較しながら考えることができる。（知識・理解） |
| 数学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 一見すると不規則で手が出せないように感じる事項でも、その根本を探ると簡単な法則や原理に基づいていることが少なくないが、数学はその根源を突き詰める作業そのものを学ぶ学問の一つである。この授業では、数学的なものの見方や考え方に触れると共に、数学の美しさや面白さ、便利さを体験し、同時に数学の歴史や数学者の素顔に迫る。具体的には数の概念から始めて、関数・幾何学・微積分学・指数対数・三角関数などの高校で学んだ分野を広く扱って、私たちの身の回りに活かされている数学のアイデアを見つけ出し、簡単な計算を行いながら、そのアイデアを様々な角度からとらえていく。数学が好きだった／得意だったという学生にも、苦手だった／でも勉強したいという学生にも履修してほしい内容である。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容を深く理解する 2. 身の回りで活かされている数学的な見方や考え方に関心を抱く 3. 論理的に思考することができる 4. Excelの使い方を上達すること | <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な社会の出来事で得られたデータの分析、解析、考察ができること。 2. データからの予測ができること。 3. 身の回りのものから数学を感じる 4. 数学の理論から応用化を感じる 5. 数学の便利さを気づくこと |
| 物理学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 物理学の原理は日常身の回りに無数に存在するのであるが、それを意識している人は少ない。物理学は、自然現象を深く考え、なぜだろうと問いかける学問の一つであって人間の好奇心に根ざした学問でもある。本講義では、物理学の視点から自然法則の意味合いとその現代社会との関連性を学ぶほか、物理学の歴史にも触れながら、現代科学が先人の努力と成果の上に築かれていることを理解するとともに、生活に関わる材料の物理的・数量的考え方を体験する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 力学・熱学・波動論・電磁気学といった古典物理学の基礎体系を理解し、日常生活や学業生活に活用できる。（知識・理解）（技能）（関心・意欲・態度） 2. 物理学に関する必要な情報を自分で探索・調査し、正しい情報を選んで利用できるリテラシーを獲得している。（技能）（思考・判断・表現） | <ol style="list-style-type: none"> 1. 物体の運動（変位・速度・加速度）および力、エネルギーという物理学の基礎概念について説明できる。（知識・理解） 2. 実験・実証の重要性を理解し、講義中に示した実現象について、物理学の意味を回答できる。（関心・意欲・態度）（思考・判断・表現） |
| 化学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 私たちの身の回りには未だ化学的に十分理解されていない現象も少なくない。そこで、人の生活の中で目にするさまざまな現象を化学の視点で考察する。文科系の学生にもわかりやすく、科学の基礎を理解し、科学的な考え方を涵養する。理科系の学生の場合、授業を通して得た教養を通して専攻する専門分野への興味を深めることができるようになる。文科系の学生の場合、社会で要求される自然科学的思考法（物事の因果関係を追及する）が身につけられる | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業にきちんと出席し、スライドに書かれたことをノートに写すのみでなく、話の中で重要な点をメモでき、わからないことは実験中に積極的に質問することができる。 2. 授業内容に関する試験問題に関して、ノートを見ずに大体の正答が書ける。 3. 自然科学的な見方（自然現象における因果関係の探求）に関して、ノートを見ずに、例を挙げて説明ができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業にきちんと出席し、スライドに書かれたことをノートに写すことができる。 2. 授業内容に関する試験問題に関して、ノートを見ながら解答できる。 3. 自然科学的な見方（自然現象における因果関係の探求）に関して、ノートを見ながらなら、例を挙げて説明ができる。 |
| 生物学 | 教養教育科目 教養ユニット 専門を学ぶための教養 | 2 | 1・2・ 3・4 | 生物化学・生命科学の基礎知識を習得し、生命現象への理解を深める。生化学の飛躍的な進歩に続く遺伝子の実体解明によって、“生きていることの実態”がほぼ解明された。生命を維持しているのは細胞構造の中に組み込まれた生化学反応のネットワークであり、その主役はタンパク質や核酸をはじめとする機能性高分子である。こうした現代生物学が解明した最も基本的な生物像について理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能について、具体的な器官や分子を例に説明できる。（知識・理解） 2. 生物の進化について、人類にいたる一連の流れを説明できる。（知識・理解） 3. 遺伝子と疾病・老化との関係について、関連遺伝子を例に説明できる。（知識・理解） 4. 人間の営みと地球環境との関係について、具体的な事例をもとに説明できる。（知識・理解） | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能について、概要を説明できる。（知識・理解） 2. 生物の進化について、概要を説明できる。（知識・理解） 3. 遺伝子と疾病・老化との関係について、概要を説明できる。（知識・理解） 4. 人間の営みと地球環境との関係について、概要を説明できる。（知識・理解） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|------------|-------------------------------------------|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教職入門 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門基礎分野 国際学部：関連科目 | 2 | 1 | 激変する世界情勢や日本社会の中で、次世代を育成する学校教育や教員に期待される役割は大きく、その職務が肥大化し、学校教育現場が新しい指導内容や指導体制の整備、諸改革に伴う多くの仕事に追われている現状を知る。近代～現代の学校教育の整備と拡充を通して培われた聖職者論・労働者論・専門職論の教職観が、教員養成・採用・研修における教員の資質能力の確認や形成、社会が要求する教員の職務拡大や多様化、教員自身のアイデンティティ醸成に大きく寄与していることを理解する。さらに、21世紀に入り、教員の負担軽減と児童生徒の事情に適切に即応することを狙い、家庭・地域社会との連携強化や他専門職との連携・分担など、「チーム学校」と呼ばれる新しい学校組織、学校運営の形態が始動していることを学び、これからの教員に期待される専門職性を検討し、自らの適性を確認する。 | 1. 教師という職業が成立した歴史的経緯とその専門職性を理解し、日本社会の教職観をクラスメートと議論し確認できる。（知識・理解）（技能） 2. 教員養成のしくみと希望する地方公共団体及び私立学校の教員採用試験の内容や受験スケジュール等を理解し、1-4年生の学習計画を立てることができる。（知識・理解）（技能） 3. 教師の有すべき資質・能力について、様々な教師論や国の政策等を参照しながらクラスメートと議論し、不易／流行の観点から提言レポートを作成できる。（思考・判断・表現） 4. 自己の教師としての適性を踏まえ、修得すべき知識・技能と専門科目及び教職科目の相応を理解して、今後の計画的な履修を検討することができる。（意欲・関心・態度）（技能） | 1. 教師という職業が成立した歴史的経緯とその専門職性を説明できる。（知識・理解） 2. 教員養成のしくみと希望する地方公共団体及び私立学校の教員採用試験の内容や受験スケジュール等を理解している。（知識・理解） 3. 教師の有すべき資質・能力について、自己の経験や国の政策等を踏まえ、クラスメートと意見を交換できる。（思考・判断・表現） 4. 自己の教師としての適性を確認し、修得すべき知識・技能を判断できる。（意欲・関心・態度） |
| 教育学概論 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門基礎分野 国際学部：関連科目 | 2 | 2 | 「教育職員免許法施行規則」第6条第1項に示された表中「教職に関する科目」第3欄指定の「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を扱う。具体的には、教育の意義や目的、人間の成長・発達についての基本を理解し、日本および西洋における教育の歴史の変遷を踏まえながら、そこにある教育思想や教育観に学び、現在の日本の教育について多様な観点から考察する。 | 1. 育の基礎的概念、理論、歴史、思想等を土台に自らの教育観を構築することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 教育の意義・目的を理解した上で、現在教育の諸課題について多様な観点から考察を深めることができるようになる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度） 3. 現代教育の諸課題について確かな認識をもち、対応策を提案することができる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度） | 1. 教育の基礎的概念、理論、歴史、思想等について主体的に学ぶ姿勢をもち続けるようになる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2. 教育の意義・目的を理解することができる。（知識・理解） 3. 現在の教育課題について確かな認識をもつことができる。（関心・意欲・態度）（思考・判断・表現） |
| 発達と学習 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門基礎分野 国際学部：関連科目 | 2 | 2 | 出生してから高齢に至るまでの人間の行動発達のプロセスをたどりながら、学習のメカニズム、言語、思考、対人行動など、具体的な行動を取り上げて解説し、生涯発達という視点が如何なるものか、生涯発達を前提にした教育の意義について考えていく。ただし、講義を進めていく中で、受講生の理解の程度などに配慮して変更することもありうる。 | 1. 生涯発達（life-span development）という視点から人間行動を概観し、学校教育の意義、求められる教員の役割、教授法や評価法などについて考えることができる（知識・理解） 2. 教員-生徒間に展開する教育現場がいかなるものか理解できる（知識・理解） | 1. 生涯発達（life-span development）という視点から人間行動を概観し、学校教育の意義、求められる教員の役割、教授法や評価法などについて述べる（知識・理解） 2. 教員-生徒間に展開する教育現場がいかなるものかを述べる（知識・理解） |
| 教育の制度と経営 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目 | 2 | 2 | 日本の教育制度について、法的根拠となる憲法や教育基本法他を確認し、その整備確立の歴史や現状について学ぶ。特に、教育を受ける権利を保障する手続きについて、「義務教育」の成り立ちや学校教育の拡充過程（諸外国との比較を含む）、国と地方の教育行政、家庭・学校・社会の役割と協働関係、学校・学級運営で生じている事件・事故・災害の諸事例を通じて、その制度的構造を把握する。そして、児童生徒の教育権や学習権を保障するにあたって、教員や学校教育が抱える課題を見出し、21世紀に求められる公教育を展望する。学習目標をより効果的に達成するため、2つの課題レポートを作成する。第1回は、大学近隣の文部科学省・情報広場への訪問について報告する。第2回は、授業で学んだ教育制度のしくみや学校運営の実際を通じ、第15回授業での討論を基に、学校教育の抱える諸課題の改善方を提案する。 | 1. 日本及び諸外国の教育制度の整備・発展の歴史及び現代の制度を理解している。（知識・理解） 2. 日本国民及び日本在住外国人の教育を受ける機会及び権利を保障する諸法規を理解している。（知識・理解） 3. 現代日本社会の諸課題に応じる教育改革の動向を把握し、その成果と問題点について分析し、クラスメートと意見を交換できる。（思考・判断・表現） 4. 中学校・高等学校運営のしくみ及び教員の校務・職務に関わり、学校事故や訴訟等の事例を踏まえ、教員や学校として適切な対応について提案できる。（思考・判断・表現） 5. 文部科学省・情報広場に訪問し、期限までに報告レポートを提出することができる。（関心・意欲・態度）（技能） | 1. 日本における学校教育の整備・発展の歴史及び現代の制度を理解している。（知識・理解） 2. 日本の教育制度を支える法体系を理解している。（知識・理解） 3. 現代日本社会の諸課題に応じる教育改革の動向を把握し、その成果と問題点を整理できる。（思考・判断・表現） 4. 中学校・高等学校運営のしくみ及び教員の校務・職務を法的根拠に基づき説明できる。（思考・判断・表現） 5. 文部科学省・情報広場に訪問し、報告レポートを書くことができる。（関心・意欲・態度）（技能） |
| 教育課程の意義と編成 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目 | 1 | 2 | 教育課程の意義、関係法令、教育課程の変遷、学習指導要領の特徴、学習指導要領を踏まえた教育課程の編成・実施のポイント、教育課程に関する基礎的な理論、カリキュラム・マネジメントなどについて考えながら学び、学校組織の一員として教育課程の編成・実施に主体的に参画・協働するために必要な知識と能力を身に付ける。 | 1. 教育課程の意義や教育課程の基準の必要性などについて説明できる。（知識・理解） 2. 教育課程に関する法令や学習指導要領の特徴について説明できる。（知識・理解） 3. 学習指導要領総則を踏まえ学校での教育課程の編成・実施のポイントについて説明できる。（知識・理解） 4. 教育課程の編成・実施に関わる基礎的な理論について説明できる。（知識・理解） 5. 教育課程の変遷（各時代の学習指導要領の特徴等）について説明できる。（知識・理解） 6. カリキュラム・マネジメントについてその考え方や重要性について説明できる。（知識・理解） | 1. 教育課程の意義や教育課程の基準の必要性などについて説明できる。（知識・理解） 2. 教育課程に関する法令や学習指導要領の特徴について説明できる。（知識・理解） 3. 学習指導要領総則を踏まえ学校での教育課程の編成・実施のポイントについて説明できる。（知識・理解） 4. 教育課程の編成・実施に関わる基礎的な理論について説明できる。（知識・理解） 5. 教育課程の変遷（各時代の学習指導要領の特徴等）について説明できる。（知識・理解） 6. カリキュラム・マネジメントについてその考え方や重要性について説明できる。（知識・理解） |
| 道徳教育の理論と指導 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目 | 2 | 3 | 道徳的指導力を獲得するため、道徳教育の意義や原理について様々な角度から考え、道徳教育の歴史的な展開、さらには実践上の方法や課題などについても学び、道徳教育について主体的に考える力を身につける。 | 1. 道徳教育の意義や原理などについて比較するなどして具体的に説明することができる。（知識・理解） 2. 学校における道徳教育の目標や内容を記述することができ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を授業に応用することができる。（知識・理解） | 1. 道徳教育の意義や原理などについておおまかに述べる（知識・理解） 2. 学校における道徳教育の目標や内容をある程度記述することができ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を授業に一定程度適用することができる。（知識・理解） |
| 特別活動の理論と指導 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目 | 1 | 2 | 学校には、多様な人間と多様な関係を形成する機会が用意されている。そこでは、集団の一員として関わりながら活動を成し遂げる過程で、関係を一段と深め、また自らの役割や生き方を見つめる機会を得ることができるはずである。さらに、社会に主体的に参加していく道筋も見出せるだろう。こうした経験を保障する特別活動の意義について、実践事例にも触れながら具体的に考える。 | 1. 特別活動の意義を理解できる。（知識・理解） 2. 実践的課題を意識化して、特別活動の指導ができる。（知識・理解）（技能） | 1. 特別活動の意義を説明できる。（知識・理解） 2. 実践的課題を意識化して、特別活動の指導ができる。（知識・理解）（技能） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|--------------------|-----------------------------------------------|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育の方法と技術 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目 | 2 | 2 | 激変する社会の課題を克服し、新しい時代を拓く次世代の能力を開発し伸ばすため、新しい教育方法論や指導技術が考案され、様々な教材・教具が開発されてきた歴史を辿り、教育方法の本質を掴む。具体的には、学校教育の普及に伴う一斉教授の浸透、個々の能力を開発し効果的な学習を促す児童中心主義や経験主義のアプローチ、高学歴化の進行に伴う学力観及び学力評価の多様化、脱学校論の支持によるホームスクーリング及びインターネットによる在宅学習の選好等に着目する。そして、今後の学校教育におけるICT機器の活用を通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現し、論理的思考を指導するための基礎的スキルを身につける。さらに、学期中に中学・高等学校を訪問・見学、独自の教育理念や新学習指導要領に基づく教育実践や学習評価の方法について報告レポートを作成し、大学での学びを深化し、より良い指導技術や教育実践を考究する。 | 1. 教育方法の理論と実践の歴史を踏まえ、現代の学校教育実践の諸課題を指摘できる。（知識・理解） 2. 学習指導の類型とその効果と難点を理解し、授業での活用方法を提案できる。（知識・理解）（技能） 3. 学習状況の評価や評定について、法令等に基づく手続きや様式を理解し、しくみを説明できる。（思考・判断・表現） 4. 取得予定の免許教科（中学校・高等学校）の学習指導要領、教科書、年間教育計画、学習指導案について相互の関わりを説明し、学習指導案の一部を作成できる。（思考・判断・表現）（技能） 5. 学校訪問及び授業見学をし、その教育実践の特徴を掴み、報告レポートを書くことができる。（関心・意欲・態度）（技能） | 1. 学校教育における教育方法の理論と実践の歴史について整理し、説明できる。（知識・理解） 2. 学習指導の類型とその効果と難点を整理できる。（知識・理解） 3. 学習状況の評価や評定について、法令等に基づく手続きや様式を理解している。（思考・判断・表現） 4. 取得予定の免許教科（中学校・高等学校）の学習指導要領、教科書、年間教育計画、学習指導案について相互の関わりを説明できる。（思考・判断・表現） 5. 学校訪問及び授業見学をし、その学校運営と教育実践の特徴を掴み、報告レポートを提出期限までに提出することができる。（関心・意欲・態度）（技能） |
| 生徒指導（進路指導を含む） | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目 | 2 | 3 | 「生徒指導（進路指導を含む）」では、まず生徒指導の位置付けや意義について学び、学校の組織的な取り組みのあり方について把握する。次に、生徒指導上の課題の内容（暴力行為、いじめ、不登校、インターネット、性に関する課題、児童虐待等）や、集団指導・個別指導の方法原理について理解する。そして、発達特性や集団の形成過程と関連づけて、生徒指導上の課題に対応する視点を養う。また、生徒指導体制と教育相談体制のあり方や両者の相違について理解したうえで、専門家や関係機関との連携のあり方について考える。その後、進路指導・キャリア教育の位置付け・意義・重要性を理解し、組織的な指導体制、および家庭や関係機関との連携の重要性について知る。さらに補足すると、この授業では実践的な理解をより深めるために、ポートフォリオの作成やディスカッション等を行う。 | 1. 生徒指導にかかわる知識に関心を向け、意欲的に学ぶことができる（関心・意欲・態度）。 2. 生徒指導の定義や教育課程における生徒指導の位置づけ・意義・重要性について十分に理解し、学校の指導方針や年間指導計画、および校務分掌に基づく組織的な取り組みの重要性を総合的に理解できる（知識・理解）。 3. 集団指導・個別指導の方法原理の基礎について十分に理解し、発達特性や集団の形成過程と関連づけた生徒指導のあり方を包括的に理解できる（知識・理解）。 4. 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する様々な法令の内容を理解し、発達特性や集団の形成過程と関連づけて暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の重要な課題の内容や対応について総合的に理解できる（知識・理解）。 5. 生徒指導体制と教育相談体制のあり方や両者の相違について十分に理解したうえで、専門家や関係機関との連携のあり方を詳細に示すことができる（知識・理解）。 6. インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携のあり方の概略を示すことができる（知識・理解）。 7. 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ・意義・重要性を総合的に理解し、組織的な指導体制、および家庭や関係機関との連携の重要性についても包括的に把握することができる（知識・理解）。 8. 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を詳細に説明し、ポートフォリオを十分に活用できる（思考・判断・表現）。 | 1. 生徒指導にかかわる基礎的知識に関心を向け、意欲的に学ぶことができる（関心・意欲・態度）。 2. 生徒指導の定義や教育課程における生徒指導の位置づけ・意義・重要性について理解し、学校の指導方針や年間指導計画、および校務分掌に基づく組織的な取り組みの重要性を理解できる（知識・理解）。 3. 集団指導・個別指導の方法原理の基礎について理解し、発達特性や集団の形成過程と4. 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する基礎的な法令の内容を理解し、発達特性や集団の形成過程と関連づけて暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の重要な課題の内容や対応の基本について理解できる（知識・理解）。 5. 生徒指導体制と教育相談体制の相違を理解したうえで、専門家や関係機関との連携のあり方の基本を示すことができる（知識・理解）。 6. インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携のあり方の概略を示すことができる（知識・理解）。 7. 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ・意義・重要性を一通り理解したうえで、組織的な指導体制、および家庭や関係機関との連携の重要性についても把握することができる（知識・理解）。 8. 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を説明し、ポートフォリオを活用することができる（思考・判断・表現）。 |
| 生徒指導（栄養教諭） | 家政学部：資格に関する科目 | 2 | 3 | 「生徒指導（栄養教諭）」では、まず、生徒指導の位置付けや意義について学び、学校の組織的な取り組みの重要性や生徒指導上の課題と対応の視点について理解する。次に、集団指導・個別指導の方法原理について知り、児童・生徒の自己の存在感が育まれるような生徒指導のあり方について考える。また、人間の心理・社会的発達を道筋を知り、「食」が心身の成長に及ぼす影響、および「食」を取り巻く社会環境について幅広く理解する。そして、食行動異常の様相、児童・生徒の抱える食に関する生徒指導上の課題、および栄養教諭の学校内外の連携のあり方について考える。さらに補足すると、この授業では実践的な理解をより深めるために、生徒指導のための有効な方法である絵画療法やロール・プレイングにも取り組む。また、生徒指導に関する視野を広げるために、履修生同士でディスカッションを行う。 | 1. 生徒指導の知識全般に積極的な関心を向け、意欲的に学ぶことができる（関心・意欲・態度）。 2. 教育課程における生徒指導の位置付け、および各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性に関する総合的知識を習得できる（知識・理解）。 3. 学級担任・教科担任・栄養教諭の校務分掌上の役割、および学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取り組みの重要性を総合的に理解できる（知識・理解）。 4. 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容、生徒指導上の課題の定義や対応の視点、および生徒指導体制と教育相談体制の違いについて総合的に理解できる（知識・理解）。 5. 集団指導・個別指導の方法原理に基づき、児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定のあり方について、自分なりの包括的な考えを示すことができる（思考・判断・表現）。 6. 生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導のあり方を十分に理解できる（知識・理解）。 7. 心理・社会的発達に関する諸理論の概要、「食」が心身の成長に及ぼす影響、および「食」を取り巻く社会環境について包括的に理解できる（知識・理解）。 8. 食行動異常の様相、児童・生徒の抱える食に関する生徒指導上の課題、および栄養教諭、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との学校内外の連携を含めた対応のあり方について総合的に理解できる（知識・理解）。 | 1. 生徒指導の基礎的知識に関心を向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる（関心・意欲・態度）。 2. 教育課程における生徒指導の位置付け、各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義に関する基礎的知識を習得できる（知識・理解）。 3. 学級担任・教科担任・栄養教諭の校務分掌上の役割、および学校の指導方針・年間指導計画にそった組織的な取り組みに関する基礎的知識を獲得できる（知識・理解）。 4. 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容、生徒指導上の課題の定義や対応の視点、および生徒指導体制と教育相談体制に関する基礎的知識を得ることができる（知識・理解）。 5. 集団指導・個別指導の方法原理に基づいて、児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定のあり方について、自分なりの考えを示すことができる（思考・判断・表現）。 6. 生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導のあり方の基本を理解できる（知識・理解）。 7. 心理・社会的発達に関する諸理論の概要、「食」が心身の成長に及ぼす影響、および「食」を取り巻く社会環境についての基本的知識を習得できる（知識・理解）。 8. 食行動異常の様相、児童・生徒の抱える食に関する生徒指導上の課題、および栄養教諭、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との連携を含めた対応のあり方についての基礎的知識を獲得できる（知識・理解）。 |
| 教育相談（カウンセリングを主とする） | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目 | 2 | 3 | 「教育相談（カウンセリングを主とする）」では、最初の段階で集中的に理論学習を行うことを通じて、学校における教育相談の意義、および教育相談を行ううえで不可欠な理論や概念について把握する。その後は、座学の授業回とロール・プレイングの授業回を設けて、理論と実践の往還により、教育相談に関連する幅広い理解を深める。具体的には、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの姿勢を身に付け、具体的な相談の技法について体得する。さらに、児童・生徒の不適切な行動の背後にある意味について把握したうえで、教師が児童・生徒の発達段階・発達課題を踏まえて、適切に柔軟に対応するための方法について工夫し、教師の役割への気づきを深める。それに加えて、児童・生徒・保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について把握するとともに、学校の内外の組織的な取り組みや連携の必要性について理解する。 | 1. 教育相談に関連する知識や実践体験に積極的な関心を向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる（関心・意欲・態度）。 2. 学校における教育相談の意義と課題、および教育相談を適切に行うために不可欠な理論・概念について十分に理解できる（知識・理解）。 3. 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの姿勢や、具体的な技法の内容について総合的に理解できる（知識・理解） 4. 児童・生徒の不適切な行動の意味について十分に理解したうえで、発達段階・発達課題を考慮しながら、いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する教育相談を進める方法について、包括的に理解できる（知識・理解）。 5. 教師が児童・生徒の発するシグナルに気づき、適切に対応する方法について自分なりに総合的に工夫することができる（思考・判断・表現）。 6. 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を十分に理解できるとともに、教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの重要性について包括的に理解できる（知識・理解） 7. 児童・生徒・保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について、職種や公務分掌に応じて適切に例示できる（思考・判断・表現）。 8. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を総合的に理解できる（知識・理解） | 1. 教育相談に関連する知識や実践体験に関心を向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる（関心・意欲・態度）。 2. 学校における教育相談の意義と課題、および教育相談を適切に行うために不可欠な理論・概念の基礎について理解できる（知識・理解）。 3. 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの姿勢や具体的な技法の、基本的内容について理解できる（知識・理解） 4. 児童・生徒の不適切な行動の意味について理解したうえで、発達段階・発達課題を考慮しながら、いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する教育相談を進める方法の基礎について理解できる（知識・理解）。 5. 教師が児童・生徒の発するシグナルに気づき、適切に対応する方法について自分なりに工夫することができる（思考・判断・表現）。 6. 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解できるとともに、教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備等、および組織的な取り組みの基本について理解できる（知識・理解） 7. 児童・生徒・保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について、職種や公務分掌に応じて自分なりに示すことができる（思考・判断・表現）。 8. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を知ることができる（知識・理解）。 |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|------------------------|---------------------------------------------------|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教職実践演習 (中・高) | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：諸資格に関する科目 | 2 | 4 | 大学1-4年生で身につけた教職や教科に関する専門知識と、教育実習で得た教科指導および生徒指導の経験と技術を統合深化させて、発達段階にある子ども達の教育を担う専門職としての責任や使命をあらためて確認し、教育現場で必要とされ自らに不足とする技能を省察し、その向上を図る。そして、実践的指導力を確かなものとするため、具体的には次のような授業方法を組み合わせる。大学教員および現職中学校・高等学校教員によるレクチャーの聴講、近隣の中等教育機関の見学や現職教員へのインタビュー、学校内を想定した生徒指導のロールプレイング、職員会議等に擬した集団討論、模擬授業の計画実施である。これらを通じて、学校現場で要求される上司・同僚・保護者との連携や協力関係の構築、生徒理解と指導の幅広い視点を身につけることが期待される。 | 1. 公教育担当者の自覚をもつことができる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2. 教育実習の経験を反省材料に、教育指導技能の向上を目指して学び続けることができる。（関心・意欲・態度） 3. 教育専門職者として実践的な指導ができるようになる。（技能） | 1. 教育実習の経験を反省材料として、教師の仕事について確かな認識をもつことができる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2. 公教育の意味を理解し、その担当者としての資質を十全なものにしようとする態度を身につけることができる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 3. 授業計画を立案し、教育指導に必要な必要最低限の技能を行使することができる。（技能） 4. 教師になる意欲をもち続け、そのための方途を模索することができる。（関心・意欲・態度） |
| 教職実践演習 (栄養教諭) | 家政学部 資格に関する科目 | 2 | 4 | 本授業では、教育実習を振り返り、教育実習場面で遭遇した疑問点や課題を洗い出し、その問題点を明確にしなが履修カルテを用いて学習して行く。栄養教諭が学校全体の食のコーディネーターとしての中核的役割を担うため、学校経営と給食経営、各教科等を横断した「食に関わる全体計画・年間計画」を基とした教育活動が行われていることを理解する。その上で、食に関する分野の教科・特別活動における栄養教諭としての指導案研究、教材研究、それに関わる指導技術の向上を、模擬授業または、マイクロティーチングの形式で進め、より栄養教諭としての自覚と資質を身につける。また、校内組織において栄養教諭の立場から「食に関する全体計画・年間計画」の作成に参画できる資質を身につける。 | 1. 学校教育目標から、食に関する指導目標及びその全体計画・年間計画が作成される過程を説明できる（知識・理解） 2. 学習指導要領における食育の位置づけを理解し、栄養教諭と教職員・地域との連携をもとに食育が実践されていることを説明できる（知識・理解） 3. 学習指導要領における「食に関する指導に関連する教科等の目標、各学年の発達段階における内容を理解し、指導案作成・教材研究に役立てることができる（関心・意欲・態度） 4. 教育実習校の「食に関する指導の全体計画・年間計画」をもとに児童生徒の実態を考慮した食教育経営案を書くことができる（思考・判断・表現） 5. 教育実習校の教育課程を考慮して、その地域の特質を活かした「給食を生きた教材として活用した指導計画」を立て、系統立てて表現・説明することができる（思考・判断・表現） | 1. 教育目標から食に関する指導目標及び全体計画が作成していることを説明できる（知識・理解） 2. 学習指導要領における食育についての位置づけを説明できる（知識・理解） 3. 学習指導要領における「食に関する指導」に関連する教科等の目標・内容を理解し、指導案作成に役立出ることができる（関心・意欲・態度） 4. 教育実習校の「食に関する指導の全体計画・年間計画」をもとに、食教育経営案を書くことができる（思考・判断・表現） 5. 教育実習校の地域の特性を取り入れた「給食を生きた教材として活用した指導計画」を立て、表現・説明することができる（思考・判断・表現） |
| 教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む) | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：諸資格に関する科目 | 5 | 4 | 「教育実習（事前・事後指導を含む）」は、事前指導・実習・事後指導の3段階に分かれている。事前授業の目的は、学生ひとりひとりが実習の意義について自らに引き付けて考え、意欲と目的意識をもって実習に臨もうとする姿勢を身に付けることである。そのため教育実習の意義や目的について説明した後、その実務に関する基本事項の確認を行う。次に、教師役の希望者を募り、教師役以外の履修者を生徒役として、模擬授業を行う。教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度・行動に留意し、観察・参加・学習指導を中心に活動を行う。事後指導では、自らの体験を整理し総括することを中心課題とする。 | 1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する積極的な関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する適切な自己課題を設定することができる（関心・意欲・態度）。 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な総合的な知識・情報を習得することができる（知識・理解）。 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的かつ丁寧に行い、十分に適切な教材選択ができる（知識・理解）。 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をよくつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して綿密で適切な指導計画を作成することができる（知識・理解）。 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、適切な説明・発問・板書等を行って、包括的な学習の目標を達成することができる（思考・判断・表現）。 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、効果的な生徒指導・学級経営を行うことができる（思考・判断・表現）。 7. 教育実習では、教育実習生として十分にふさわしい態度をもって、自発的かつ協働的に勤務できる（関心・意欲・態度）。 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を詳細に振り返り、十分な整理を行うとともに、今後の課題について見極めることができる（思考・判断・表現）。 | 1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する自己課題を設定することができる（関心・意欲・態度）。 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な基本的な知識・情報を習得することができる（知識・理解）。 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的に行い、適切な教材選択ができる（知識・理解）。 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して基本的な指導計画を作成することができる（知識・理解）。 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、説明・発問・板書等を行って、基本的な学習の目標を達成することができる（思考・判断・表現）。 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、基本的な生徒指導・学級経営を行うことができる（思考・判断・表現）。 7. 教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度をもって勤務できる（関心・意欲・態度）。 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を振り返り、基本的な整理を行うことができる（思考・判断・表現）。 |
| 栄養教育実習 (事前・事後指導を含む) | 家政学部 資格に関する科目 | 2 | 4 | 「教育実習（事前・事後指導を含む）」は、事前指導・実習・事後指導の3段階に分かれている。事前授業の目的は、学生ひとりひとりが実習の意義について自らに引き付けて考え、意欲と目的意識をもって実習に臨もうとする姿勢を身に付けることである。そのため教育実習の意義や目的について説明した後、その実務に関する基本事項の確認を行う。次に、教師役の希望者を募り、教師役以外の履修者を生徒役として、模擬授業を行う。教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度・行動に留意し、観察・参加・学習指導を中心に活動を行う。事後指導では、自らの体験を整理し総括することを中心課題とする。 | 1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する積極的な関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する適切な自己課題を設定することができる（関心・意欲・態度）。 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な総合的な知識・情報を習得することができる（知識・理解）。 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的かつ丁寧に行い、十分に適切な教材選択ができる（知識・理解）。 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をよくつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して綿密で適切な指導計画を作成することができる（知識・理解）。 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、適切な説明・発問・板書等を行って、包括的な学習の目標を達成することができる（思考・判断・表現）。 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、効果的な生徒指導・学級経営を行うことができる（思考・判断・表現）。 7. 教育実習では、教育実習生として十分にふさわしい態度をもって、自発的かつ協働的に勤務できる（関心・意欲・態度）。 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を詳細に振り返り、十分な整理を行うとともに、今後の課題について見極めることができる（思考・判断・表現）。 | 1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する自己課題を設定することができる（関心・意欲・態度）。 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な基本的な知識・情報を習得することができる（知識・理解）。 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的に行い、適切な教材選択ができる（知識・理解）。 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して基本的な指導計画を作成することができる（知識・理解）。 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、説明・発問・板書等を行って、基本的な学習の目標を達成することができる（思考・判断・表現）。 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、基本的な生徒指導・学級経営を行うことができる（思考・判断・表現）。 7. 教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度をもって勤務できる（関心・意欲・態度）。 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を振り返り、基本的な整理を行うことができる（思考・判断・表現）。 |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-----------------------|----------------|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育実習Ⅱ （事前・事後指導を含む） | 文芸学部：その他資格関連科目 | 3 | 4 | 「教育実習（事前・事後指導を含む）」は、事前指導・実習・事後指導の3段階に分かれている。事前授業の目的は、学生ひとりひとりが実習の意義について自らに引き付けて考え、意欲と目的意識をもって実習に臨もうとする姿勢を身に付けることである。そのため教育実習の意義や目的について説明した後、その実務に関する基本事項の確認を行う。次に、教師役の希望者を募り、教師役以外の履修者を生徒役として、模擬授業を行う。教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度・行動に留意し、観察・参加・学習指導を中心に活動を行う。事後指導では、自らの体験を整理し総括することを中心課題とする。 | 1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する積極的な関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する適切な自己課題を設定することができる（関心・意欲・態度）。 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な総合的な知識・情報を習得することができる（知識・理解）。 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的かつ丁寧に、十分に適切な教材選択ができる（知識・理解）。 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をよくつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して綿密で適切な指導計画を作成することができる（知識・理解）。 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、適切な説明・発問・板書等を行って、包括的な学習の目標を達成することができる（思考・判断・表現）。 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、効果的な生徒指導・学級経営を行うことができる（思考・判断・表現）。 7. 教育実習では、教育実習生として十分にふさわしい態度をもって、自発的かつ協動的に勤務できる（関心・意欲・態度）。 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を詳細に振り返り、十分な整理を行うとともに、今後の課題について見極めることができる（思考・判断・表現）。 | 1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する自己課題を設定することができる（関心・意欲・態度）。 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な基本的な知識・情報を習得することができる（知識・理解）。 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的に行い、適切な教材選択ができる（知識・理解）。 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して基本的な指導計画を作成することができる（知識・理解）。 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、説明・発問・板書等を行って、基本的な学習の目標を達成することができる（思考・判断・表現）。 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、基本的な生徒指導・学級経営を行うことができる（思考・判断・表現）。 7. 教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度をもって勤務できる（関心・意欲・態度）。 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を振り返り、基本的な整理を行うことができる（思考・判断・表現）。 |
| 国語科教育の理論と方法 | 文芸学部 専門分野Ⅱ | 4 | 3 | 国語科の教科指導のノウハウを、理論的な立場から具体的に学ぶことを目標とし、教壇に立つて授業を行ううえで必要な知識や、その知識を効果的に教授する方法を身につける。その際、近年の文章・談話研究や表現論、メディア論、文学理論等の成果もふまえながら、教材研究の基礎となる知識や方法論、情報機器及び教材の活用の仕方をも身につける。テキストまたは参考書として、中・高各「学習指導要領総則」「学習指導要領解説国語編」を用いる。 | 1. 教材研究の基礎となる知識を十分に身につけ、活用できる。（知識・理解） 2. 教材研究で得た知識を効果的に教授するための方法論を十分に身につけ、活用できる。（技能） 3. 情報機器及び教材の特徴を十分に理解し、活用できる。（知識・理解） | 1. 教材研究の基礎となる知識を一定程度身につけ、活用できる。（知識・理解） 2. 教材研究で得た知識を効果的に教授するための方法論を一定程度身につけ、活用できる。（技能） 3. 情報機器及び教材の特徴を一定程度は理解し、活用できる。（知識・理解） |
| 国語科教育の理論と実践 | 文芸学部 専門分野Ⅱ | 4 | 3 | 国語科の教科指導のノウハウを、理論的な立場から具体的に学ぶことを目標とし、中学・高校の学校現場での授業を想定しながら、次年度の教育実習に向けて教壇実習に必要な実践的技量を身につける。情報機器及び教材を活用し、教材開発も含め模擬授業に取り組み、教科学習の基盤となる「学びあう集団（クラス）づくり」を実践する。テキストまたは参考書として、中・高各「学習指導要領総則」「学習指導要領解説国語編」を用いる。 | 1. 学習指導要領に基づき適切な指導計画を立案し、学習指導案（全体案・細案）が作成できるようになる。（思考・判断・表現） 2. 生徒の意欲と学力を、さまざまな観点からアセスメントできるようになる。（思考・判断・表現） 3. 生徒のニーズに合わせて、学習目標に適した教材開発ができるようになる。（思考・判断・表現） 4. 発問・板書・音読等、国語授業を成立させる上での基本技量を身につけ、活用できる。（技能） 5. 模擬授業を通じ、授業デザインの仕方と学習集団作りを学び、アクティブ・ラーニング型授業を展開できるようになる。（技能） | 1. 学習指導要領に基づき適切な指導計画を立案し、学習指導案（全体案・細案）が一定程度は作成できるようになる。（思考・判断・表現） 2. 生徒の意欲と学力を、一定程度はアセスメントできるようになる。（思考・判断・表現） 3. 生徒のニーズに合わせて、一定程度の教材開発ができるようになる。（思考・判断・表現） 4. 発問・板書・音読等、国語授業を成立させる上での基本技量を一定程度身につけ、活用できる。（技能） 5. 模擬授業を通じ、授業デザインの仕方と学習集団作りを学び、アクティブ・ラーニング型授業を一定程度は展開できるようになる。（技能） |
| 社会科教育の理論と指導 | 国際学部 関連科目 | 4 | 3 | 中学社会科の特質、授業の内容と構成方法を理解し、実際の授業を構成するための知識と技能を習得する。具体的には、中学社会科の歴史を概観し、現在の教科の目標と内容を教授する。さらに、中学社会科を構成する各分野（歴史、地理、公民）の特徴と内容構成を解説する。さらに授業に耐える技能と知識を模擬授業を通して教授する。 | 1. 教科としての社会科、および地理的・社会的・公民的の各分野について、学習指導要領に掲げられた目標及び内容を熟知したうえで正確に説明できる。（知識・理解） 2. 上記目標及び内容を十分に理解したうえで、年間・単元・各授業の実践的かつ具体的な指導計画を立案できる。（思考・判断・表現） 3. 指導計画に従って、充実した内容の模擬授業を実施できる。（技能） | 1. 教科としての社会科、および地理的・社会的・公民的の各分野について、学習指導要領に掲げられた目標及び内容を理解したうえで説明できる。（知識・理解） 2. 上記目標及び内容を理解したうえで、年間・単元・各授業の指導計画を立案できる。（思考・判断・表現） 3. 指導計画に従って、必要最低限の内容を満たした模擬授業を実施できる。（技能） |
| 地理歴史科教育の理論と指導 | 国際学部 関連科目 | 4 | 3 | 地理歴史科の特質、授業の内容と構成方法を理解し、実際の授業を構成するための知識と技能を習得する。具体的には、地理歴史科とそれに先立つ高等学校社会科の歴史を概観し、現在の教科の目標と内容を教授する。さらに、地理歴史科を構成する各教科（世界史A・B、日本史A・B、地理A・B）の特徴と内容構成を解説する。さらに授業に耐える技能と知識を模擬授業を通して教授する。 | 1. 教科としての地理歴史科、および世界史A・B、日本史A・B、地理A・Bの各科目について、学習指導要領に掲げられた目標及び内容を熟知したうえで正確に説明できる。（知識・理解） 2. 上記目標及び内容を十分に理解したうえで、年間・単元・各授業の実践的かつ具体的な指導計画を立案できる。（思考・判断・表現） 3. 指導計画に従って、充実した内容の模擬授業を実施できる。（技能） | 1. 教科としての地理歴史科、および世界史A・B、日本史A・B、地理A・Bの各科目について、学習指導要領に掲げられた目標及び内容を理解したうえで説明できる。（知識・理解） 2. 上記目標及び内容を理解したうえで、年間・単元・各授業の指導計画を立案できる。（思考・判断・表現） 3. 指導計画に従って、必要最低限の内容を満たした模擬授業を実施できる。（技能） |
| 公民科教育の理論と指導 | 国際学部 関連科目 | 4 | 3 | かつての高等学校社会科の理念をふまえて現在の高等学校公民科のあり方について考える。社会科、公民科の成立の歴史や理念、具体的な教育実践、教材研究の理論と方法、授業づくり等について考察するとともに、公民科の直面する現代的・将来的課題を認識し、それへの取り組みについて検討する。 日本の教育事例のみならず積極的に外国（アメリカ）の事例も取り上げて、授業担当者自身の現地での経験もまじえながら、具体的な教育課題とくに国内の文化的多様化（多文化化）に対応する教育の実際について考究する | 1. 社会科・公民科の歴史と理念を踏まえ、学習者の置かれた社会や環境に即した教材研究の基礎を身につけるとともに、公民科という教科やその学習のあるべき姿を展望する力をつける。（技能） 2. 具体的な授業の観察（主としてビデオ資料）を通して、教育実習に必要とされる授業分析のスキルの向上をはかる。（技能） | 公民科の中心的な課題である「公正な社会的判断力の育成」について、適切な社会的事象を取り上げて教材研究を行い、それをもとに具体的な単元開発をすることができる。（技能） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------------|-----------------------------|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 美術科教育の理論と方法 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ | 4 | 3 | 学習指導要領（中学校・高等学校「美術」）の解説と理解を踏まえ、作品評価の仕方や授業の立案・展開の方法を学ぶ。また教育現場の現状と問題点をとりあげ、美術教育の在り方を検討する。教育実習に備えて「鑑賞」と「表現」の教材研究を行い、模擬授業を発表する。さらに美術館における美術教育活動や生涯教育にも目をむけ、幅広い視野と知識、視点の獲得を目指す。 | 1. 美術教育者に必要となる知識・技能・視点について具体的かつ十分に理解し、それを応用した授業の立案と実際の展開が円滑に行えるようになる。（知識・理解）（技能） 2. 美術教育・美術活動支援の現況を触れ、それらについて表現者と教育者（または支援者）双方の視点から具体的な例を挙げながら説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 授業の立案や展開について活発に議論を交わすことで、多様な意見を取り入れ、他者に対して自身の意見を示すことができる。（関心・意欲・態度） | 1. 美術教育者に必要となる知識・技能・視点についての基本を理解し、それを応用した授業の立案と実際の展開が行えるようになる。（知識・理解）（技能） 2. 美術教育・美術活動支援の現況を触れ、それらについて自身の意見を交えながら説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3. 授業の立案や展開について議論を交わすことができる。（関心・意欲・態度） |
| 美術科教育の理論と実践 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ | 4 | 3 | これからの中学高等学校美術教育について模索する授業展開とする。併設中学高等学校では、生徒の意欲を引き出すことをねらいとして、実技・制作に当たって関連する美術的情報を豊富に提示することを特色としているので、本授業でも実技の外に講義も織り交ぜ、専門的な美術用語、技法名、作家名等を紹介しながら進めていく。 | 併設中学高等学校で実際に行われている課題の制作を通して実践的な美術科教育について理解し、授業の中で示された知識・技術・視点を踏まえながら、独自の授業計画とそれに基づいた指導案が作成できるようになる。（知識・理解）（技術）（思考・判断・表現） | 併設中学高等学校で実際に行われている課題の制作を通して実践的な美術科教育について理解し、授業計画とそれに基づいた指導案が作成できるようになる。（知識・理解）（技術）（思考・判断・表現） |
| 家庭科教育の理論と方法 | 家政学部 資格に関する科目 | 4 | 3 | 本科目は、中学校・高等学校家庭科の教員免許取得のために設定された「教職に関する科目」のうち、本学で指定された科目のひとつである。「家庭科教育の理論と実践」と併せて、家庭科を指導する際に必要な基礎的内容を、情報機器及び教材を活用しながら研究してゆく。週2回の授業をもって、この科目の修得単位を満たす。併設校や各自の近隣の学校での授業参観を前期の課題の1つとしている。授業公開日に出向き、なるべく教育現場に慣れておくことが求められる。 | 科目名にあるように、学生自ら主体的に家庭科教育の理論と方法を追究することが求められている科目である。 1. 授業計画にある題材内容を自ら深めることができるようになる。（知識・理解） 2. 家庭科教育において還元できる文献や資料の収集、調査、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組む能力を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度） 3. 教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい見識を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現） | 1. 授業計画にある基礎的な題材内容を自ら深めることができるようになる。（知識・理解） 2. 家庭科教育において還元できる文献や資料の収集、調査、グループワーク、討論、学外講師の講義などに取り組む能力を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度） 3. 教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい基礎的な見識を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現） |
| 家庭科教育の理論と実践 | 家政学部 資格に関する科目 | 4 | 3 | 本科目は、中学校・高等学校家庭科の教員免許取得のために設定された「教職に関する科目」のうち、本学で指定された科目のひとつである。「家庭科教育の理論と方法」と併せて、家庭科を指導する際に必要な基礎的内容を捉えてゆく。週2回の授業をもって、この科目の修得単位を満たす。授業の後半には、学習指導案に基づき模擬授業を行いながら、相互批評においても多角的な視野を養うことができるようになる。 | 科目名に通じるように、アクティブラーニングを通して学生自ら主体的に家庭科教育の理論と実践を探ることが求められている科目である。 1. 授業計画にある題材内容を深める文献や資料の収集、調査、観察、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組むことで、自らの教育観を明示化できるようになる。（関心・意欲・態度） 2. 教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい見識を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現） | 1. 授業計画にある題材内容を深める文献や資料の収集、調査、観察、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組むことで、自らの教育観を指導案や模擬授業において明示化できるようになる。（関心・意欲・態度） 2. 教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい基礎的な見識を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現） |
| 英語科教育の理論と方法 | 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目 | 4 | 3 | 第二言語としての英語の教授法を身に付け、課題点も理解する。 | 1. 英語を教育するということはどういうことなのかという問いに、自信を持って答えることができる。（知識・理解） 2. 英語教育法の歴史について、他者に正しく説明することができる。（知識・理解） 3. 英語教育の問題点は何かという問いに、自信を持って答えることができる。（知識・理解） | 1. 英語を教育するということはどういうことなのかという問いに、答えることができる。（知識・理解） 2. 英語教育法の歴史について、他者に説明することができる。（知識・理解） 3. 英語教育の問題点は何かという問いに、答えることができる。（知識・理解） |
| 英語科教育の理論と実践 | 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目 | 4 | 3 | 教育実習に向けて、中学校・高等学校での実際の指導の現状を知り、模擬授業を通して教育力を高めていく。 | 1. 教材研究を深いレベルまでできる。（技能） 2. 自分なりの授業方法を、十分に確立している。（技能） 3. 自信を持って授業ができるだけの、高度な英語力を持っている。（技能） | 1. 教材研究ができる。（技能） 2. 自分なりの授業方法を、ある程度確立している。（技能） 3. 授業ができるだけの英語力を持っている。（技能） |
| 仏語科教育の理論と方法 | 文芸学部 専門分野Ⅱ | 4 | 3 | フランス語を教えるのに必要な基礎知識を確実に身に付けるとともに、その知識を効果的に教える方法を研究する。前期には、発音、冠詞、形容詞、動詞の法と時制、日常用いる基本的表現などについて、徹底的に復習し、それを確実に使え、また明確に説明できるようになることをめざす。後期では、具体的な教材を取り上げ、学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を行うことによって、正確かつ効果的な教授法を身に付ける。近年は、フランス語教育のあり方について、コミュニケーションを重視したアプローチから、言語と行動を結びつける教育法が取り入れられるようになっている。こうした多様な言語教育の手法も学んでいく。また、教科書分析のしかた、評価の方法、教室内で有効な様々なテクニックなど、様々なトピックスを扱う。前期は講義と演習を組み合わせる授業を行い、後期は受講生それぞれが指導計画を作成し、模擬授業を行う。 | 1. 十分な語学的知識をもってフランス語を的確に運用し、教えることができる。（知識・理解）（技能） 2. フランス語教育の歴史、近年の動向についての確かに説明することができる。（知識・理解） 3. 教育という営みについて多角的な視野をもち、かつ自身の考えを述べるることができる。（思考・判断・表現） | 1. 基礎的な語学的知識をもってフランス語をある程度運用し、教えることができる。（知識・理解）（技能） 2. フランス語教育の歴史、近年の動向について大まかに説明することができる。（知識・理解） 3. 教育という営みについて多角的な視野をもつことができる。（思考・判断・表現） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|--------------|--------------------------------------------|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 仏語科教育の理論と実践 | 文芸学部 専門分野Ⅱ | 4 | 3 | 4年次に行われる教育実習に先立ち、教壇で授業ができる能力を養う。フランス語の授業を行うためには、どうしたらよいか。授業の準備の仕方、そして実際に教壇に立った時の授業の展開を学ぶ。テキストや教材に触れ、その教授法の効果や問題点を考えるとともに、学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を実施する。特に正しい発音法、自分の意思を伝え、相手と意見交換することができる会話力、日常的な実用文を書くための作文力等を身に付けさせるための効果的な授業方法を考え、それを実践する。テキストまたは参考書として、中・高各「学習指導要領総則」「中学校学習指導要領外国語編」「高等学校学習指導要領解説外国語編英語編」を用いる。 | 1. フランス語の4技能を確実に身に付け、教えることができる。（技能） 2. テキストの内容をわかりやすい発声で正確に説明できる。（知識・理解） 3. フランス語を教えるために必要な基礎知識、基本的態度、教科書の活用法、授業運営能力、生徒への対応をまんべんなく身に付けている。（関心・意欲・態度） 4. 模擬授業を行い、反省点をわかりやすく明文化できる。（思考・判断・表現） | 1. フランス語の4技能を身に付け、おおまかに教えることができる。（技能） 2. テキストの内容をおおまかに説明できる。（知識・理解） 3. フランス語を教えるために必要な基礎知識、基本的態度、教科書の活用法、授業運営能力、生徒への対応を身に付ける努力をしている。（関心・意欲・態度） 4. 模擬授業を行うことができる。（思考・判断・表現） |
| 情報科教育の理論と方法 | 文芸学部 専門分野Ⅱ | 2 | 3 | 本授業科目は、「高等学校教諭一種免許状(情報)」取得のために設定された「教職に関する科目」のひとつである。後期「情報科教育の理論と実践」と併せて、情報科を指導する際に必要な知識や技能を身につけていただく。「情報科」の意義・目的・教育方法を考察し理解していただく。実際に授業を行う上で必要な教材研究・授業設計・生徒理解・評価・授業改善などの具体的な方法を、多くの事例を概観しながら講義や演習を通して理解する。また、世界の情報教育について考察するとともに、未来の日本の情報教育について夢を持って議論し考察する。 | 1. 教育課程全体の中で、教育の情報化や教科「情報」を必修で実施することの意義・役割を認識できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 授業を行う上で必要な教材研究や授業設計・評価・改善能力を理解・修得できる（知識・理解）（技能） 3. 情報科教員の基礎的な資質を理解できる。（知識・理解） 4. 情報科教育の現状把握と、今後の情報化教育の在り方について思案し未来を見通すことができる。（思考・判断・表現） 5. 後期「情報科教育の理論と実践」科目において実践的な演習を行える基礎技能を修得する。（知識・理解）（技能） | 1. 半期15回の内、5回以上出席する（関心・意欲・態度） 2. 後期「情報科教育の理論と実践」科目において実践的な演習を行える基礎技能を修得する。（知識・理解）（技能） |
| 情報科教育の理論と実践 | 文芸学部 専門分野Ⅱ | 2 | 3 | 本授業科目は、「高等学校教諭一種免許状(情報)」取得のために設定された「教職に関する科目」のひとつである。前期「情報科教育の理論と方法」の修得を本授業の学習前提条件とする。次年度の教育実習も見据えつつ、高校「情報」科の教員として教壇に立ち、実際に授業ができる実践能力を身に付ける。高校「情報」科教員になるための現状理解、世界と比較し日本の「高校『情報』科」が目指すものを考察、高校「情報」科授業の実践を通じて、教育実習はもとより、即戦力として教壇に立てる技能のほか、将来教員として実践したい具体的な夢をたくさん見つけていく。 | 1. 高校「情報」科の各科目の授業が行える（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 2. 高校「情報」科として教育実習を完遂できる（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 3. 「高校『情報』科」教員採用試験」を自信をもって受験できる（関心・意欲・態度） 4. 高校「情報」科の教員として授業の実施、施設管理、生徒理解、自己研鑽ができる（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） | 1. 半期15回の内、5回以上出席する（関心・意欲・態度） 2. 情報科教員の基礎的な資質を修得（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） |
| 学校経営と学校図書館 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目 | 2 | 3 | 国際化・情報化の進展により社会は変革を求められている。こうした変化に対応するには、異文化を理解し多様な価値観を認める態度、多様な情報を収集分析して活用できる能力、自己の生き方を大事にしながら他者の考え方も認める態度の育成が大切である。現在学校では、自らが課題を自覚し必要な情報を収集し解決に導く自学自習能力の育成が大きな課題となっている。児童・生徒にこうした能力を身に付けさせるために、学校図書館が学校教育を補完する施設としてきちんと機能していくことが重要といえる。学校図書館が果たすべき教育的意義・役割、運営に関わる基本的事項を解説し、学校教育と図書館の望ましいあり方を考えてもらうことを目的とする。 | 1. 学校の中で学校図書館の果たすべき教育的な意義や役割を深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 2. 学校図書館の運営に必要な知識のうち、学校経営に関わることを網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 3. 学校経営の観点からの司書教諭の役割について深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） | 1. 学校の中で学校図書館の果たすべき教育的な意義や役割について最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 学校図書館の運営に必要な知識のうち、学校経営に関わることについて最低限の説明ができる。（知識・理解） 3. 学校経営の観点からの司書教諭の役割について最低限の説明ができる。（知識・理解） |
| 学校図書館メディアの構成 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目 | 2 | 3 | 学習過程において活用される教材・教具には図書や視聴覚メディアをはじめとする多様なメディアがある。これらを活用していくことは、児童・生徒が学習内容に対する理解と思考を深め、情報や知識を収集・整理し活用していく方法を習得するのを助けることになる。学校図書館の多様なメディアの存在意義を理解し、メディアの収集・整理・蓄積・利用において学校図書館が果たすべき役割を考える。また、学校図書館メディアが利用目的に応じて効率的に活用されるためには、利用しやすいように整理し組織化しておく必要がある。メディアを内容(主題)によって分類配列すると同時に、必要なものを迅速かつ的確に探し出せるよう目録を整備するといったメディアの組織化について解説する。 | 1. 学校図書館メディア(情報メディアを除く、以下同じ)の種類やそれぞれの特性、利用法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 2. 学校図書館メディアのコレクション構築についての深い知識を持ち、それを他者に説明できる。（知識・理解） 3. 分類法を用いて学校図書館メディアの分類作業を行う方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 4. 分類法を用いて、応用的な学校図書館メディアの分類作業を行うことができる。（技能） 5. 目録法を用いて学校図書館メディアの目録レコード作成を行う方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 6. 目録法を用いて、応用的な学校図書館メディアの目録レコード作成作業を行うことができる。（技能） | 1. 学校図書館メディア(情報メディアを除く、以下同じ)の種類やそれぞれの特性、利用法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 学校図書館メディアのコレクション構築について最低限の説明ができる。（知識・理解） 3. 分類法を用いて学校図書館メディアの分類作業を行う方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 4. 分類法を用いて、基礎的な学校図書館メディアの分類作業を行うことができる。（技能） 5. 目録法を用いて学校図書館メディアの目録レコード作成を行う方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 6. 目録法を用いて、基礎的な学校図書館メディアの目録レコード作成作業を行うことができる。（技能） |
| 学習指導と学校図書館 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目 | 2 | 3 | 情報社会の進展により、学校教育の目的は生涯に渡る自己学習を可能にする能力を身に付けることへと変化し、学校教育自体が生涯学習体系の一環として位置付けられるようになった。生涯を通して自ら学ぶことを可能にするメディア活用能力の育成は、学校教育に対する社会的な要請といえる。「学び方を学ぶ」教育は、学校教育の今日的課題であり、そのために教科学習をはじめあらゆる教育活動に、学校図書館とそのメディアを活用する学習活動を展開していくことが求められている。メディア活用能力の育成を支援する学校図書館と司書教諭の役割についての理解を深めると同時に、教育課程の展開に学校図書館を活用していくための具体的な方法について考える。 | 1. 教科教育における学校図書館およびそのメディアの活用方法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 2. 総合学習における学校図書館およびそのメディアの活用方法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 3. 課外活動における学校図書館およびそのメディアの活用方法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 4. 児童・生徒・教諭のメディア活用能力の育成を支援する司書教諭の役割について深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） | 1. 教科教育における学校図書館およびそのメディアの活用方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 総合学習における学校図書館およびそのメディアの活用方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 3. 課外活動における学校図書館およびそのメディアの活用方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 4. 児童・生徒・教諭のメディア活用能力の育成を支援する司書教諭の役割について最低限の説明ができる。（知識・理解） |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-----------|----------------------------------------------|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 読書と豊かな人間性 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目 | 2 | 3 | 読書及び読書指導(教育)の必要性を確認することから出発し、そのためには、どのような学校図書館や図書館活動が有効かを理解したうえで、具体的な読書指導の方法について学ぶ。子どもに本を読むことを推奨していくのは、学校教育の大切な役割の一つといえる。読書が人間性や創造性を高めてゆく上で大きな影響を及ぼし、子どもの人格形成に深く関わることは広く認められているところである。しかし、読書行為を継続させ習慣化に至らせるためには、児童・生徒の発達段階に応じた適切な動機付けが不可欠である。読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトークなどの方法を駆使しながら読書指導を行うのは司書教諭の重要な役割といえる。読書指導の意義・役割、発達段階に応じた指導の在り方などを解説し、理解を深めるようにするとともに、子どもの読書習慣の形成に有効と思われる動機付けの方法を考える。読書環境の変化と子どもにとっての読書の意義にも触れる。 | 1. 読書および読書指導の必要性を深く理解し、それを他者に説明できる。(知識・理解) 2. 児童・生徒に読書への興味を持たせるための様々な図書館活動について深く理解し、それを他者に説明できる。(知識・理解) 3. 児童・生徒の発達段階に応じた読書指導のあり方を深く理解し、それを他者に説明できる。(知識・理解) 4. 読書習慣の形成を促す動機付けの方法を深く理解し、それを他者に説明できる。(知識・理解) | 1. 読書および読書指導の必要性について最低限の説明ができる。(知識・理解) 2. 児童・生徒に読書への興味を持たせるための様々な図書館活動について最低限の説明ができる。(知識・理解) 3. 児童・生徒の発達段階に応じた読書指導のあり方について最低限の説明ができる。(知識・理解) 4. 読書習慣の形成を促す動機付けの方法について最低限の説明ができる。(知識・理解) |
| 情報メディアの活用 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目 | 2 | 3 | パーソナルコンピュータとインターネットの普及により、小・中・高等学校においても教育にコンピュータが使われるようになってきた。教育現場では、「情報のエキスパート」「メディア専門職」たる司書教諭が、学校図書館の運営のみならず教諭や児童・生徒のコンピュータおよびインターネット利用の手助けをすることが求められている。また、現在広く活用されており、さらに多様化が進んでいる視聴覚メディアについて知ることも重要である。本科目では、コンピュータやコンピュータネットワークの基本的なしくみを論じた後、教育現場におけるコンピュータ利用教育の基本的な方法、新たな利用方法を考えるためのヒント等を紹介する。さらに、実際に機器を操作し演習課題をこなすことにより理解を深める。また、視聴覚メディアの特徴およびその活用法を論ずる。 | 1. 視聴覚メディアの種類やそれぞれの特徴、扱い方、活用法について網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(知識・理解) 2. コンピュータやインターネット、デジタルコンテンツなどの情報メディアの種類やそれぞれの特徴、扱い方、活用法について網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(知識・理解) 3. 児童・生徒・教諭への視聴覚メディアや情報メディアの適切な提供について深く理解し、それを他者に説明できる。(知識・理解) 4. 情報メディアに関する情報を収集する方法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。(知識・理解) 5. 自ら問題を設定し、情報メディアに関する情報を収集する方法を適用して問題解決ができる。(技能) 6. 情報メディアを学校教育および学校図書館へ応用的に適用することができる。(技能) | 1. 視聴覚メディアの種類やそれぞれの特徴、扱い方、活用法について最低限の説明ができる。(知識・理解) 2. コンピュータやインターネット、デジタルコンテンツなどの情報メディアの種類やそれぞれの特徴、扱い方、活用法について最低限の説明ができる。(知識・理解) 3. 児童・生徒・教諭への視聴覚メディアや情報メディアの適切な提供について最低限の説明ができる。(知識・理解) 4. 情報メディアに関する情報を収集する方法について最低限の説明ができる。(知識・理解) 5. 情報メディアを学校教育および学校図書館へ適用する課題を、指示された方法で行うことができる。(技能) |
| 博物館学概論 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目 | 2 | 2 | 1. 博物館の目的と課題 博物館とはどういうものかを、博物館法など関係法規に照らしながら、その目的・種類などを講義する。同時に現代社会の中で博物館がどのように運営されているか、種類・設置目的・規模などの違いによる多様性を検討し、それらの違いによる博物館の職域とそのあり方、指定管理者制度や博物館評価などの現実課題を考える。 2. 博物館の機能は、古代・中世・近代の社会においてどのようなものであったかを、宗教や市民社会の発達、万国博覧会や明治維新、第二次世界大戦後の教育改革など、時代背景や行政とのかかわりの中で考え、ヨーロッパ・アメリカ・日本における博物館発達の歴史的背景の違いに注目して考察を行なう。 3. 博物館活動の実際 博物館運営の実際を現場での仕事の進め方に即して講義する。資料収集やその保存、展覧会の企画から開催まで、またそれと並行して行われる広報・教育普及事業などを含んだ学芸員の仕事内容を事例に則しながら紹介し、学芸員の特性と仕事の意味を考える。 | 1. 博物館に関する基礎的知識を理解し、その習得を目指す(知識・理解) 2. 現代の博物館で働くということに関し、目的意識をもち自覚的に取り組む意欲を持った博物館職員となれるよう、専門性のある業務に関する基礎能力を身につける(関心・意欲・態度) | 1. 博物館がどのようなものか、その目的・種類などを理解している(知識・理解) 2. 博物館の職域とそのあり方、指定管理者制度や博物館評価などの現実課題を考えることができる(知識・理解) 3. 博物館の機能が社会の中でどのようなものだったのかを説明できる(知識・理解) 4. 現代の博物館で働くということに関し、目的意識をもち自覚的に取り組む意欲を持った博物館職員となれるよう、専門性のある業務に関する基礎能力が身につけている(関心・意欲・態度) |
| 博物館経営論 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目 | 2 | 3 | 博物館経営の基本概念を理解させることから始め、まずは博物館の社会的な位置づけから、博物館に求められる責任と活動の範囲を認識させる。こうしたことを背景に博物館の設置に関する知識と、設立されて以降の組織としての博物館の総合的管理のほか、財政管理、人員の管理、設備の管理の具体的知識を与える。また博物館の活動として求められる展示・教育・調査・研究活動や地域や他機関との連携についても学ばせる。 | 1. 博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解している(知識・理解) 2. 博物館経営(ミュージアムマネジメント)に関する基礎的能力が身につけている(技能) | 1. 博物館の社会的な位置づけから、博物館に求められる責任と活動の範囲を理解している(知識・理解) 2. 博物館の設置に関する知識と、設立されて以降の組織としての博物館の総合的管理について理解している(知識・理解) 3. 博物館の財政管理、人員の管理、設備の管理について理解している(知識・理解) 4. 博物館における展示・教育・調査・研究活動や地域や他機関との連携について理解している(知識・理解) |
| 博物館資料論 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目 | 2 | 3 | 博物館における資料の意味と価値を理解させた上で、それらの種類と分類について述べ、次にその収集と活用について理解させる。具体的には、資料の収集の方向性や方法、収集の際の留意点を述べた後、収集した資料を管理する方法と活用のあり方について述べる。特に資料の活用方法については、展示以外の方法について様々な事例を例示する。最後に、博物館資料を中心とする博物館の調査研究活動のあり方について述べる。 | 1. 博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得する(知識・理解) (技能) 2. 博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を身につける(技能) 3. 資料収集の実務の中で行なわれる資料の収集、整理保管や調査研究活動の実態を、講義のみならず見学などを通じて理解できる(知識・理解) | 1. 博物館における資料の意味と価値を理解する(知識・理解) 2. 博物館における資料の収集の方向性や方法、収集の際の留意点を理解する(知識・理解) 3. 収集した資料を管理する方法と活用のあり方について理解する(知識・理解) 4. 博物館資料を中心とする博物館の調査研究活動のあり方について理解する(知識・理解) |

| 科目名 | 科目区分 | 単位 | 学年 | 科目概要 | 到達目標（成績評価A） | 単位修得目標（成績評価C） |
|-------------|---------------------------------------------------|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 博物館資料保存論 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目 | 2 | 3 | 博物館の使命は、資料を安全に活用し、次世代への引継ぐために保存することである。現在、博物館の資料保存は保存環境整備、資料の修理、調査研究という大きく3つの柱で構成されている。状態調査で現状を把握し、その状態にいたるまでの経緯や保存環境を分析し、原因を究明する。分析結果をもとに環境の改善を行なう。一方で環境を整え保存してもなお、モノとしての資料は劣化していく。それらを安全に活用および保存するために、最終手段として修理を行なう。修理は資料にとって大きな負担となる手術である。この手術を行なうためには、理論構築を念入りに行ない、作業内容については詳細な記録を残し、資料とともに後世につなげる必要がある。また、博物館資料のみならず、建造物や自然環境といった文化遺産についても、その保存にどのように取り組むべきであるのかを考えたい。 | 1. 博物館における資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力が身につけている（知識・理解）（技能） 2. 博物館で実際に行なっている保存の現場をイメージできる 3. 将来実際に学芸員として現場に立った際に役立つスキルが身につけている（技能） | 1. 博物館における資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力が身につけている（知識・理解）（技能） |
| 博物館展示論 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目 | 2 | 3 | 博物館における展示の目的や要件、用途による種類などを述べた後、そうしたものが博物館の歴史の中でどのように求められ達成されてきたのか、時間的経過と地域や国による違いを比較しながら述べる。次に具体的な事例を示しながら、展示室に求められる条件や展示ケースに求められる条件、ケースの種類を紹介し、そこに展示される作品との関係を述べる。後半においては、展示の具体的方法と技術、解説パネル等について述べる。 | 1. 博物館における展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力が身につけている。（知識・理解）（技能） 2. 展示会場の大きさやレイアウトに応じた展示や、予算や使用できる器材に応じた展示ができるような臨機応変の能力を持つことができる。（技能） | 1. 博物館における展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得している（知識・理解）（技能） 2. 展示会場の大きさやレイアウトに応じた展示や、予算や使用できる器材に応じた展示ができる（技能） |
| 博物館情報・メディア論 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目 | 2 | 3 | 博物館で扱う情報の概要を知り、情報アーカイブに関する基礎知識と活用法を学ぶ。 また、博物館から発信される情報のあり方を検証するとともに、マスメディアやソーシャルメディアとの関わりをつかむ。広報誌やウェブサイトを使った情報発信の事例検証、マスメディアやソーシャルメディアにおける博物館情報の事例検証を通じて、博物館からのより効果的な情報発信の可能性を探る。 受講者には課題を与え、日常生活の中で博物館の情報収集を行わせる。リアルタイムの博物館情報をもとに、その分析と体系化を繰り返すことにより、博物館の情報およびメディアの活用に関する基礎的能力を養う。 | 博物館における情報の意義と活用方法及びICT社会における情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の効果的な提供と活用法についての基礎的能力が身につけている。（知識・理解） | 博物館における情報の意味と活用方法および情報発信の課題等について理解し、博物館の情報提供と活用等に関する基礎的能力を習得している。（知識・理解） |
| 博物館教育論 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目 | 2 | 2 | 講義を通して、大きく三つに分けた博物館教育の「対象」「方法」「役割」について考えていく。 まず、博物館の来館者研究とプログラムの改善のための評価方法について学び、各対象者の特性とアプローチを考える。次に博物館の学習理論を理解した上で、博物館教育の手法について、国内外の事例をもとに理解し、プログラムの企画と実施について学ぶ。最後に、博物館がどのようにあるべきか、使命を理解し、そのための博物館の教育の役割を考えたい。また、講義に加え、授業の中でディスカッションやグループワークを行い、受講者同士の異なる視点からの柔軟な発想やコミュニケーション能力を高め、博物館教育について、共通理解をもてるようにする。 | 1. 博物館の役割の中心であり、教育活動の基盤となる博物館教育について、その理論や実践に関する知識と方法を習得し、基礎的能力が身につけている（知識・理解） 2. 博物館に関する仕事の志望者が、広く教育の視点を持った上で各々の研究を進め、役割を実践できるための能力を身につける（技能） | 1. 博物館の来館者研究とプログラムの改善のための評価方法について理解している（知識・理解）。 2. 来館者研究の対象者の特性と、アプローチを考えることができる（技能） 3. 博物館の学習理論を理解した上で、博物館教育の手法について理解し、プログラムの企画と実施について理解している（知識・理解） 4. 博物館の使命を理解し、博物館の教育の役割を考えたい。また、生涯学習、地域とのかかわり、人材育成について考えることができる（知識・理解） |
| 博物館実習 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：諸資格に関する科目 | 3 | 4 | 美術品・文化財の取り扱い方、梱包・陳列の方法を実習する。また博物館・美術館の見学を通じて、展示・照明・解説の方法や収蔵・修復についての実態、教育・普及・研究活動のあり方などを学ぶ。 実際の掛幅や茶器・染織品などを用いて、作品を取り扱う前の準備、取り扱いや片付け方を実習する。作品の調査方法や、保管方法も実習する。また展示会の際には、展示ケース内に作品を展示する方法や展示具の効果的な使い方を実習する。見学においては、前記の内容につき、観察したうえ、要点をノートに記録する。 | 1. 見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通して、多様な館種の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力が身につけている（技能） 2. 博物館で学芸員が行う実務、特に作品に関わる実務を実践的に体験し、博物館での仕事がこなせるようになる（技能） | 1. 博物館・美術館の見学を通じて、展示・照明・解説の方法や収蔵・修復についての実態、教育・普及・研究活動のあり方を理解している（知識・理解） 2. 作品を取り扱う前の準備、取り扱いや片付け方が身につけている（技能） 3. 作品の調査方法や、保管方法、展示ケース内に作品を展示する方法や展示具の効果的な使い方が身につけている（技能） |
| 生涯学習概論 | 家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門基礎分野 国際学部：関連科目 | 2 | 2 | 生涯学習とはどのようなことを意味し、その理念はどのように形づくられたのかを理解する。そのために、代表的な思想家や機関がこれまでどのように論議を重ねてきたのかについて、それぞれの思想や歴史的背景などについても理解し、現代の生涯学習が抱える課題についても考える。 | 1. 生涯学習の理念や歴史などについて具体的に説明することができる。（知識・理解） 2. 生涯学習に関わる基礎的な知識や技能を比較したり関係づけることなどを通して深く解釈したり、系統立てることができる。（知識・理解） | 1. 生涯学習の理念や歴史などについておおまかに述べることができる。（知識・理解） 2. 生涯学習に関わる基礎的な知識や技能をある程度解釈したり、一定程度系統立てることができる。（知識・理解） |